

七 「大東亜共栄圏」における食糧問題

1 タイ、仏印との米穀取得交渉と食糧需給計画

843 昭和16年12月21日 在タイ坪上大使より
東郷外務大臣宛(電報)

内地への食糧運送に関する軍側との折衝につ
き報告

バンコク 12月21日後発
本省 12月21日後着

貴電第九〇五三號
第一〇五三號ニ關シ

柴野書記官内山總領事ト同道南方派遣軍總司令部ニ於テ總
參謀長塚田中將參謀副長青木中將、坂口中將ト面談シ内地

ニ於ケル食糧事情ヲ説明シ重要物産特ニ食糧運送ニ付特別
ノ御配慮ヲ得度キ旨申シタル處軍トシテハ作戦ノ關係モア
リ希望ノ通り實行スルコトハ或ハ困難ナランモ極力考慮ス
ヘク現在ニ於テモ事情ノ許ス限り徵用船ノ利用ヲ爲サシメ

ツツアル旨ノ回答アリタリ尙海軍省外部委員長堀ノ内大佐
ニ對シテモ同趣旨ノ要望ヲ爲シタル處出來ルタケ援助スル
旨ノ回答ヲ得タリ

844 昭和16年12月24日 在タイ坪上大使より
東郷外務大臣宛(電報)

タイ米買付け交渉におけるタイ側の数量及び
価格協定申出への対応について

バンコク 12月24日後発
本省 12月24日後着

貴電第九〇八六號
第一〇八六號ニ關シ

「タイ」米取得ニ關スル交渉ハ往電第七七一號申進ノ如ク
正式ニ數量及價格ノ一括要求ハ之ヲ避ケ小刻ミ買付ヲ爲シ
結果ニ於テ七〇萬噸獲得ヲ得ル方針ヲ取り居レリ然ルニ最
近ノ情勢變化ニ伴ヒ今後ノ「タイ」米ハ日本ニ依存スルノ

外無キ爲「タイ」側ヨリ數量及價格ニ付協定シ「タイ」國經濟ノ安定ヲ計リタキ旨申出アリタルモ右ハ錫、護謨等ニ伴ヒ大ナル關係アリ又英國ト競争シ買付ヲ敢行スルノ外無カリシ時代ノ條件ヲ其ノ儘鶉呑ミトスルコト困難ナルヲ以テ佛印米及緬甸米ノ價格ノ確定等ヲ根據トシテ必要アレハ之ニ政治的考慮ヲ加ヘテ協定スルヲ最モ妥當ト信シ目下研究中ナリ

~~~~~

845 昭和16年12月31日

在タイ坪上大使より  
東郷外務大臣宛電報

タイ米買付け價格等に関するタイ側との交渉について

バンコク 12月31日後発  
本省 1月1日後着

往電第一一二〇四號ニ關シ  
三十日「ボリバン」、「ワニツト」本使ヲ來訪シ對日輸出重要物資特ニ米ノ價格ノ協定ニ付意見ヲ求メタルニ付本使ハ米ノ對日供給價格ニ付テハ

一、目下協議中ナル佛印米ノ價格及將來占領地區ニ付テハ現緬甸米ノ價格ト著シク不釣合ナル價格ノ協定ハ困難ナルコト

二、本年ノ價格ハ對英競爭ノ結果ヨリ生セシモノナル（一語不明）ヲ除外シ合理的ナル基礎ニ於テ決定スルヲ妥當トスト述ヘタル處「ワ」ハ右趣旨ハ一應了解スルモ元來「タイ」米ハ良質ナルノミナラス最近ニ於テハ運送用、灌漑用燃料其ノ他必需品價格ノ昂騰並ニ日本ヨリノ輸入品ノ價格ノ値上リニ付テモ同様考慮セラレタキ旨ヲ答ヘ柴野書記官ヨリ右「タイ」側主張ノ基礎トナルヘキ資料並ニ米ノ價格ヲ如何ニ協定スルカニ關スル「タイ」側ノ非公式意見ノ提示ヲ求メ其ノ應諾ヲ得タリ右價格ハ三箇月又ハ六箇月ノ期間ヲ以テ決定シ得ル見込ナルモ本價格ハ日本ノミナラス馬來其ノ他ノ占領地區ヘノ供給價格ヲモ自然律スルニ至ルヘキヲ以テ慎重研究ノ上或ル程度ノ見透ヲ得ルニ至ラハ改メテ請訓スル見込ナリ  
右至急湯川食糧管理局長官ニ連絡アリタシ

~~~~~

昭和17年1月2日

在仏印芳沢大使より
東郷外務大臣宛(電報)

仏印米対日供給に関する日仏印経済委員会会議の議事概要報告

ハノイ 1月2日後発
本省 1月3日後着

(1) 第五號

往電第二三〇號ニ關シ

十二月三十一日第七回委員會會議概況次ノ通リナルカ左記各項ニ亘リ御意見アラハ折返シ御相煩度シ

(一) 佛印側ハ前日ノ會議ニ於テ四一年度ノ經驗ニ鑑ミ四二年一度ノ米ノ對日供給ノ確實ヲ期スル爲收穫出廻ニ付實際的檢討ヲ加ヘタル後五月ニ入り協定數量ヲ決定スルヲ希望シタルモ結局一月二日佛印側ノ提出スル出廻豫想資料ニ基キ年間ノ對日供給ノ該算數量ヲ檢討協定スルト共ニ一月ヨリ五月迄ノ對日供給數量總額及月別割當額ヲ定メ更ニ五月初ニ完成スヘキ生産高ニ依リ年間ノ一定的對日供給數量ヲ決定スルコトセリ

(二) 我方ハ對日供給ヲ確保スル爲日本側ト佛印側輸出統制機

關トノ連絡ヲ密ニスヘキコトヲ申出タルニ日本側カ米委員會ニ加入スルコトハ佛印政廳ノ一機關ナルノ故ヲ以テ至難ナリト言ヒタルヲ以

日佛混合委員會(日佛印協定第一五條丙表追加第一號第六項御參照)ニ於テ米ノ對外輸出割當ノ決定及白米ノ貯藏計畫佛印側輸出機關ト日本側輸出トノ間ニ生シタル問題ノ解決、米委員會ノ重要決定事項ノ報告、輸送及麻袋等ニ關スル協力等ノ事項ヲ掌ラシムル様權能ヲ擴大スルコトトシ其ノ議案ヲ一應佛印側ヲシテ立案セシムルコトセリ

(三) 佛印側ニ於テハ糠及白米ノ貯藏、集荷、輸出ノ統制ニ付四一年度ヨリモ強力ナル手段ヲ講スル趣ニテ四一年七月一日附總督令二代ハル若クハ新法令ヲ近日中ニ公布スヘシト述ヘタリ

(四) 佛印側トシテハ輸出可能量ハ全部日本向トスルコトハ異議無キモ四二年一度ニ於テモ佛本國及植民地向航行不能ナルヲ豫想シ四一年度通り白米ニ付佛本國及植民地向二〇萬噸、上海向一二萬噸ヲ留保シタント述ヘ

(五) 我方ヨリ假ニ四二年度下短期ニ至リ佛側向航行可能トナ

リタル場合一時ニ留保額ヲ輸出シ對日供給ニ影響ヲ與フ

ルハ容認セサル旨述ヘタル處佛印側ハ對日供給ニ影響セ

シメサル如ク考慮スト答ヘタリ

(五)四一年度對日供給ノ白米ハ一號米及二號米ナルカ佛印側

トシテハ精米能力低下防止及對日供給數量增加ノ點ヨリ

シテ四二年度ハ全部白米二號ニ致シ度キ旨述ヘ又對日供

給ノ全數量(我方要求セル量ノ一割ハ碎米ニテ可ナリト

言フ點)ヲ白米二號ヲ以テスルコトモ可能ナルヘシト答

ヘタリ

(六)玉蜀黍ニ付テハ四一年度ノ輸出餘力程度即チ二十萬噸ヲ

超ユルコト至難ナル旨述ヘタリ依テ右ノ代用トシテ米粉

(「ファリン」)ヲ輸出シ得ルヤト質シタルニ米粉ヲ希望ス

ルナラハ篤ト研究スト答ヘタリ

西貢ヘ轉電セリ



847 昭和17年1月5日

在仏印芳沢大使より
東郷外務大臣宛(電報)

仏印米対日供給に関する日仏印經濟委員会会

議の議事概要について

ハノイ 1月5日後発

本省 1月6日後着

第一四號

往電第一二號ニ關シ

第八回(一月一日)及第九回(一月三日)委員會會議概要左記

各項ノ通リナリ會議促進ノ要アルニ付御異見アラハ一月十

日迄ニ御回電相煩度シ

一、佛印米ノ輸出餘力ノ基礎タルヘキ粉ノ出廻豫想一六〇萬

噸ニ付テハ未タ其ノ資料ヲ入手シ得サルモ佛印側ハ四一

一四二年度稻作ノ植付當時降雨些少ナリシコト及「バツ

タンニン」地方ヲ「タイ」國ニ讓渡セルコトヲ理由トシ

本年度粉ノ出廻豫想ハ平年ヨリモ少ク算定セリト述ヘタ

リ

右ニ付考フルニ最近五ヶ年(三七—四二)ノ白米、碎米及

玄米ノ年平均輸出數量ハ一一八萬噸ニシテ

又四一—四二年度稻作カ現在ノ處精々平年作ヲ豫想セシ

ムモノ如クナルヲ以テ粉一六〇萬噸、白米碎米九九萬二千噸ハ多少ノ安全率ヲ含ミ又歩ミ上リニ若干ノ問題アルヘキモ四二年度輸出餘力ノ基礎トシテハ大過ナキヲ

得ヘシ

尙佛印側ハ四一年度ノ經驗ニ鑑ミ責任上出廻豫想ニ基ク
對日供給數量ノ保障ヲ避ケタキ意嚮ナルモ上記數量ハ昨
年ニ比シ相當確實性アルモノト觀ラルヘク佛印側モ恐ラ
ク本年度輸出ハ上記數量ヲ多少トモ超ユヘント述ヘタリ
二、右ニ對シ我方ヨリ佛印側ノ要求數量タル最少限度九〇萬噸
ハ日本ノ食糧關係ヨリ

(3) 緊要ナル數量ナルト共ニ佛印米輸出餘力ヲ充分考慮シタ
ル數量ニシテ佛伊^(印カ)側ノ示シタル對日供給ハ日本側ノ滿足
シ得ヘキモノニ非ス從て我方要求數量ヲ佛伊^(印カ)全生產ヨリ
天引スル位ノ考ヘニテ尙供給増加ニ付考慮セラレタシト
強ク述ヘタリ然レ共會議促進ノ必要モアリ一應佛印側ノ
提示シタル輸出餘力ヲ基礎トシ我方意見ヲ述ヘタリ

(4) 佛印米ノ輸出ハ全部日本向ケトスヘシ
(5) 佛國及佛植民地向ケニ付テハ昨年ト異ナリ現在輸送行

ハレス從テ現狀ニ即シ計畫ヲ立テルヲ妥當トスルヲ
テ將來ノ輸送路再開ヲ前提トスル割當ハ之ヲ止メ上海
向ケ十萬以外ノ凡テノ白米碎米及粉米ノ輸出餘力ハ全
部日本ニ振向クルコト

若シ四十二年中ニ佛側向ケ輸送可能トナリタル場合ニ

於ケル最高限度二十萬噸ヲ限り佛側カ引取ルハ勿論差
支ヘナシ(佛印側トシテハ本國ニ對スル關係等モアリ
形式的ニモ協定上佛向ケ留保ヲナシ置キ度キ意嚮ノ如
クナルカ實質上ハ我方ノ要求ヲ入ルル考ヘナリト認メ
ラル尙佛印側ノ覺書ニ於テハ佛側向ケ輸送ヲナシ得サ
リシ場合七月及十月ニ於テ日佛印双方ニ其ノ數量ヲ折
半ストアルモ右ニ付七月ノ場合ハ全額ヲ日本向ケトス
ルコト異議ナシト述ヘタリ)

(6) 佛印側ハ輸出餘力ノ基礎タルヘキ糲ノ出廻リ調査ヲ五
月十日迄ニ完了スヘク其ノ結果輸出餘力カ豫想數量以
上ニ達スルコト明カトナリタル場合ニハ佛印側ハ其ノ
超過數量ヲ日本側ニ供給スヘシ(佛印側ニ對シ此ノ點
ニ付超過數量ヲ日本側ニ保留スルハ差支ヘナキ旨答ヘ
タリ)

(7) 佛印側ハ尠クトモ二月五萬噸三月九萬噸四月九萬噸ノ
對日供給ヲ保障スヘシ(佛印側ハ此ノ點ニ付上記數量
ヲ輸出シ得スト答ヘタリ尙一月ニ出廻ルヘキ糲ハ水分
含有率高ク乾燥不充分ニシテ從來ハ舊穀ト混合シテ

出シタルモ本年ハ混合スヘキ舊穀ノ出廻リナク品質ノ保障ヲ爲シ得ストノ説明アリ又一月中ニ積出シタル數量ハ二月以降ノ數量ニ影響スト述ヘ更ニ「ショロン」

ニ於ケル精米能力ハ市民ノ消耗一部日本軍ノ監理等ニ依リ一箇月能力ハ現實ニ十萬噸程度ナリト言ヒ居レリ)

(ホ)佛印駐屯日本軍ニ對スル引渡數量ハ最近成立シタル軍事協定ニ依リ對日供給數量ニ含マレサルモノト了解ス(佛印側ハ對日供給數量ニ包含セシメタキ旨答ヘ)

尚對日軍供給ハ米穀會計局ノ仲介ニ依リ爲サレ其ノ品質引渡條件價格ハ三井物產ト米穀會計局トノ間ニ於テ

其ノ都度決定シ度キ旨述ヘ居レリ)

(ヘ)五月十日完成ノ佛印側糲出廻調査ノ檢討

等ノ事項ヲ掌ラシメタク尙右混合委員會ノ權限擴大

ハ日本側ノ佛印米委員會ヘノ加入申入ニ對スル佛印側ノ代案ナルヲ以テ權限ニ付テハ充分考慮ノ要アリ

(佛印側ハ日下案作成中ナルヲ以テ近ク提出スヘシ

ト述ヘタリ)

(ト)對日供給米ノ引渡、積出、包裝ノ樣式ニ付テハ先ソ關係當事者即チ米委員會長ト三井物產ニ於テ話合ウコトトセラレタシ(本件ニ付テハ一月五日話合フコトトナリ其ノ結果ヲ委員會ニ於テ取上クル豫定ナリ)

三、本件ニ關スル當方意見參考迄

(イ)先方申出ノ出廻リ豫想數量ハ我方要求ヲ充足スルニハ不充分ナルモ佛印側ノ申出ハ對日供給ノ確實ヲ期シ度

シトノ趣旨ニ基クモノテモアリ五月十日ノ調査ヲ待チ

テ本年度保障數量ヲ更ニ検討スルコトトシ此ノ際ハ右ノ豫想數量ヲ交渉ノ基礎トスルモノトス

ト
イ、西貢米ノ輸移出數量ノ割當、月別積出計畫
ロ、佛印側輸出統制機關ノ重要決定事項ニ參加スルコト
ハ、佛印側輸出機關ト日本側輸入機關トノ間ニ生スヘ
キ諸問題ノ解決

七 「大東亜共栄圏」における食糧問題

- (口) 佛印側向二十萬噸ニ付テハ先方ノ申出ヲ撤回セシムヘ
ク努力スルモ實質的ニハ支障ナキモノト認ムルヲ以テ
若シ先方カ形式ヲ重ンシ其ノ申出ヲ要認サレ度シト希
望スル場合ニハ佛印側向輸送不可能ナル時ハ其ノ全數量
ヲ日本側ニ供給スルヲ條件トシテ先方ノ希望ヲ要ル
モノトス
- (ハ) 二月ヨリ四月迄ニ先方カ供給スヘシト申出テタル數量
ハ從來ノ同期間ニ於ケル輸出數量ニ比シ少キ様認メラ
ルモ現在ノ日本側配船西貢及「シヨロン」ニ於ケル
相互事情ヲモ考慮シ先方申出中一割程度増減アルヘシ
トノ項ヲ削除セシム更ニ實行上毎月少クトモ一萬噸程
度増加スル如ク努力セシムルコトトシ先方ノ申出數量
ヲ保障セシムルモノトス
- (二) 一月中ニ於ケル對日供給ハ日本ノ食糧事情ニシテ之ヲ
許スナラハ見合セルヲ可トス
- (ホ) 四十一年度對日供給ノ協定數量ニ満タサル數量ニ付テ
ハ當方ハ未タ觸レサルモ結局四十二年一度出廻り數量ノ
内ヨリ供給セラルルコトナルヲ以テ本年度協定數量
ノ増加ニ重點ヲ置クモノトス

848

昭和17年1月9日 在仏印芳沢大使より

東郷外務大臣宛(電報)

仏印側より仏印米対日供給価格覧書の提示に

ついて

ハノイ 1月9日後発
本省 1月10日前着

第三八號

一月八日第十一回委員會會議ニ於テ佛印側ヨリ米ノ對日供
給價格ニ付左記要旨ノ覺書ノ提出アリタルヲ以テ不取敢電
報ス

(ト) 軍用米ハ昨年程度ノ數量ハ對日數量協定外トシテ取扱
ハシムルモノトス

(チ) 米粉ハ糠ノ代用タリ得ルト思量スルヲ以テ之ヲモ供給
セシムルヲ可トス

(ヘ) 白米ノ品質ニ付テハ日本ノ食糧政策上支障ヲ來ササレ
ハ先方ノ申出タル品質即チ白米二號碎米四十%入ヲ容
認スルモノトス

白米一號二五%碎ヶ米入二四比弗

白米二號四〇%碎ヶ米入二〇〇比弗

トス

第四八號

ハノイ 1月10日後發
本省 1月11日後着

(二)右價格ハ五月六日附日佛協定ノ目的タル通商均衡ヲ維持セントスル場合ニハ其ノ最低限ノ價格ニシテ右價格以下ニテハ印度支那ハ米ヲ讓渡シ得サルヘシ

(三)西貢ニ於ケル米ノ原價ヲ騰貴セシムル原因次ノ如シ

(イ)交趾支那ニ於ケル生産地帶ト西貢市場間ノ糶ノ運賃ハ一年前ニ比シ五〇%以上騰貴セリ米價ニ對スル此ノ騰貴ノ影響一五%ナリ

(ロ)交趾支那ニ於ケル土人ノ生計費ハ一五%程度昂騰セリ而モ此ノ生計費ハ輸入物資ノ價格騰貴ニ依ル水準ニ達セサルモノニシテ四二年度中ニ於テハ四一年一月ニ比シ一〇〇%以上ノ騰貴ヲ豫測シ得ヘシ農民大衆ノ必需物資ト布綿製品ハ一五〇%程度ノ騰貴ヲ爲セリ

(二)二月一日以降毎月佛側向輸送カ不可能ナリシト共ニ向フ約三週間内ニ於テ輸送力豫期シ得サル場合ハ佛印ハ一六、六六六噸ヲ日本ノ處置ニ委ヌ

(三)此ノ各月ノ一六、六六六噸ハ自動的ニ日本ニ留保セラレタル年間ノ總數量ニ追加セラルヘシ但シ其ノ積出シハ混合委員會ノ協定ニ依リ米穀市場ノ能力ニ應シ其次ノ月ニ於テナサルヘシ

四年間ニ於テ輸送ノ可能性カ存スル場合ニハ二一〇萬噸ニテ輸出ノ爲佛印ニ引渡スコトヲ約ス

仏國への米配分に関する仏印側申出について

昭和17年1月10日 在仏印芳沢大使より
東郷外務大臣宛(電報)

仏國への米配分に関する仏印側申出について

四年間ニ於テ輸送ノ可能性カ存スル場合ニハ二一〇萬噸ニテ輸出ノ爲佛印ニ引渡スコトヲ約ス

(五)佛印ノ佛側向ケトシテ處分シ得ル米粉(「ファアリンブラン

849

七 「大東亜共栄圏」における食糧問題

シユ)及碎米一、二號ノ總數量ヲ日本カ取得スルコトニ
同意ス此ノ米粉及碎米ノ價格ハ別ニ決定セラルヘク其ノ
數量ハ「コントワル」ニ依テ毎月算定セラレ積出シノ期
日ハ混合委員會ノ協定ニ依テ定メラルヘシ碎米及米粉ノ
積出シ數量ハ毎月二五、〇〇〇頓ヲ越エサルコトヲ條件
トシテ日本ハ佛印ニ依リ引渡サレタル數量ヲ放棄セサル
モノトス

(六)日本カ以上ニ依テ決定セラル數量ヲ引取ラサル場合ハ
佛印ハ此ノ碎米及米粉ヲ日本以外ノ仕向ケニ留保スル權
利ヲ有ツ

西貢(公)へ轉電セリ

850 昭和17年1月13日

東郷外務大臣より
在仏印芳沢大使宛(電報)

仏印米の対日供給量につき交渉振り訓令

本省 1月13日後8時05分発

第一九號(大至急)

貴電第一四號及第三七號ニ關シ

今日迄ノ先方ノ申出ハ我方要望ヲ距ル所遠ク我方トシテ其

儘受諾シ難キ點多々アリ今後ノ交渉振ニ關スル當方針ハ
他ノ諸案件ニ關スル方針ト共ニ近ク申進スベキモ我國食糧
事情ハ一月中ニモ品質上ノ危険ハ冒スモ少クトモ貴電第一
二號末段ノ四萬噸程度ノ買付ハ之ヲ必要トスルニ付右御含
ノ上協定ノ成立ヲ待タズ供給ヲ行ハシムル様措置アリタシ
西貢ニ轉電アリタシ

851 昭和17年1月20日

在仏印芳沢大使より
東郷外務大臣宛(電報)

仏印米の「大東亜共栄圏」内積出先につき請訓

ハノイ 1月20日後発
本省 1月21日前着

第八九號
往電第二三〇號ニ關シ

佛印側ハ其ノ本國向ケ保留米ヲ我方要求ニ應シ實質上日本
向ケトスルコト及其ノ輸出餘力全部ヲ擧ケテ對日供給ニ充
ツルコトヲ承諾シ品質ニ於テハ兎モ角其ノ數量ハ概ネ我方
要求量ニ近ク而モ昨年ニ比シ數量ノ確保ハ自信アリト洩シ
居ル次第ナルヲ以テ此ノ上ハ監視ヲ嚴重ニシ出來得ル限り

多クノ數量ノ獲得ニ努力スヘキモ大東亞戰ニ依ル新占領地域ノ軍需米及住民用米ノ一部ヲモ佛印ニ依存スル場合其ノ

程度ニ應シ日本向ケ積出ハ減少スヘキ筋合ニシテ若シ右減少ヲ抑止セントセハ將來生産ニ當ルコト日本トシテハ勿論

關心スヘキコトナルモ特別ノ工作ニ依ルノ外ナカルヘク

單ナル經濟交渉上ノ問題トシテハ解決シ得サルモノト覺悟

シ置クコト當然トスル處(運送其ノ他ヲ考慮シ佛印米ハ專

ラ日本向ケトシテ新占領地所用米ハ他地區ノモノヲ使用ス

ルトセハ問題ハ別ナリ)鮮クトモ本年内ニ於ケル大東亞圈

内ニ於ケル米穀補給計畫如何ニ決定相成リ居ルヤ承知致度

尙差當リ案件トシテハ次ノ各項御回電アリタシ(内山公使發本使宛電報第四六號御參照)

一、新占領地方所要ノ軍需米及住民用米ノ佛印ニ於ケル取得方法、月別數量、支拂條件

二、佛印駐屯軍ノ軍需米ノ取得方法、月別數量、支拂條件
三、新占領地方所要ノ民需米ノ一部ヲモ佛印米ニ依ル場合ノ其ノ積出シ輸送機關

四、西貢農林省駐在員ニ對シ特殊向軍需米トシテ二月十日ヨ

リ二十日迄ニ七萬五千噸積出シノ指令カ與ヘラレタリト
ノコトナルモ右ニ關スル事情

西貢へ轉電セリ

~~~~~

852 昭和17年1月24日

東鄉外務大臣より  
在仏印芳沢大使宛(電報)

### 仏印米價格引上げ要請に対し消極的対応方訓令

本省 1月24日後9時00分発

第七六號(大至急)

貴電第三八號ニ關シ

一、先方申出ノ價格ハ昨年中ニ於ケル泰米買付價格ヲ基礎トシテ割出シタルモノト認メラルル處昨年ノ泰米價格ハ主トシテ英國系ノ謀略的買煽リノ結果不當ニ引上げラレタルモノニシテ正常價格ヲ示スモノニ非ズ最近日泰政府間ニ本年度供給米ノ價格協定ノ話進ミ居リ他方「バーツ」貨ノ大幅切下ヲ含ム日泰爲替比率ノ改訂ヲ考慮中ニテ右實現ノ場合ニハ泰米價格ハ邦貨換算百四、五十圓見當ニ定メラルル見込ナリ(此ノ點ハ未ダ泰政府ト交渉開始シ居ラザルニ付嚴ニ貴使限り御含置アリタシ)

二、依テ我方トシテハ泰米トノ均衡上佛印米ニ付テハ從來泰

米ニ比シ幾分價格低キヲ常トスル點ハ之ヲ措キ前記價格程度(精々一割増)迄ハ引上ヲ承認シ得ヘシト思考シ居レ

リ佛印側トシテハ右價格受諾ニ相當難色アルベキモ後記三ノ諸點ノ外泰米ノ價格ハ交渉上最モ有力ナル論據トンテ利用シ得ベク且我方トシテハ諸般ノ關係上佛印米ヲ泰

米ヨリ高價ニ決定スルコトハ面白カラザルニ付價格決定ハ成可ク泰米價格ノ見透シツクヲ待チ之ヲ爲スコト得策ト存ズ右御含ニテ交渉アリタシ

右ノ場合ニモ米ノ取得ハ遷延ヲ許サザル事情アルヲ以テ

一月中ノ引渡ハ昨年度協定ノ條件ニテ行ハシメ(往電第  
三一號)二月以降ノ引渡ニ付テハ例ヘバ新價格決定ノ上  
ハ差額ヲ拂込ムコトシ不取敢昨年度價格ヲ支拂ヒ引渡  
ヲ爲サシムル等適宜辦法ヲ講ズル様御取計相成度シ

三、佛印側申出ノ價格引上ノ根據ハ我方トシテ其ノ儘容認シ  
難ク少クトモ左記諸點ハ主張シ得ベシ御如才ナキ儀トハ  
存スルモ爲念

(イ)昨年度價格ハ佛印側ノ計算ニ基キ昨年中ノ騰貴ヲ織込

ミ昨年一月當時ノ相場ニ比シ相當高ク決定セラレタル

コト

(ロ)現在ノ西貢市場相場ハ相當低位ニアルコト(西貢發費使宛電報第四三號)

(ハ)米委員會ハ白米買入價格ト協定價格トノ間ニ從來ノ輸出商口錢(五%見當)ヲ超ユル多額ノ利益(農林省推算ニ依レバ二十比弗見當)ヲ計上シ居ル嫌アルコト

(二)佛印農民ノ生活程度ニ鑑ミ主トシテ都會用品タル輸入品ノ騰貴ハ勿論綿布ノ如キ大衆用品ノ騰貴スラ其ノ儘米ノ生產費ノ騰貴ヲ意味セズ其ノ影響ハ輕微ナルベキ

コト

四、白米其ノ他各種銘柄ノ價格差ニ付テハ過去ノ平常年度ニ於ケル西貢相場ノ示ス價格差ニ精米所採算ヲモ加味シ計算シタル結果我方トシテハ白米一號ヲ一〇〇トスル各種銘柄ノ價格ハ左記ノ通トスルヲ至當ト認ムルニ付之ニ準據シテ各價格ヲ協定スルコトト到度シ白米二號(九四)、玄米及白碎米一號(八〇)、白碎米二號(七五)、同三號(六五)、白糠(三〇)、玄糠(一五)

尙詳細資料別途送付ス

西貢ニ轉電アリタシ

昭和17年1月24日

(東郷外務大臣より  
在仏印芳沢大使宛(電報)

「大東亜共栄圏」内の食糧需給計画と仏印米の入手方訓令について

別 電 昭和十七年一月二十四日発東郷外務大臣より  
在仏印芳沢大使宛第七八号

右訓令

本省 1月24日後9時00分発

第七七號(大至急)

貴電第四九號ニ關シ

一、大東亜戦争進展ニ伴ヒ我方ハ從來食糧不足地域タル新占領地ニ對シテモ食糧供給ノ必要ヲ生ジ且下大東亜全体ヲ通ズル需給計畫策定中ナル處推算ニ依レバ差當リ「ビルマ」ニ期待シ難ク佛印及泰ヨリ夫々佛印米百三十七萬廻、玉蜀黍四十六萬廻、泰米百五十萬廻ノ供給ナクバ各地ノ不足ヲ補填シ得サル現状ナリ從テ極力佛印及泰ヨリノ供給ヲ増加スル一方各地ノ消費ヲ切詰メ計畫的分配ニヨリ需給調節ヲ計ルノ外ナク之力爲ニハ我方ニ於テ全供給ヲ一手ニ收ムルコト絶対ニ必要ナルヲ以テ泰米ニ付テ泰國

政府ノ協力ヲ得テ右方針ニテ進ミ居レリ

二、依テ佛印米ニ付テハ本邦ノミヲ考慮シ計畫セラレタル九十万廻程度ヲ確保スルヲ以テハ足レリトセス極力前記目標ニ近キ數量ヲ供出セシムルコト必要ナルニ付此ノ際改メテ佛印米(白米、碎米、米粉等ヲ含ム)ノ輸出餘力ノ全部ヲ我方ニ供給方ヲ約セシメ要領別電第七八号ノ通數量ヲ協定スルコト致度シ

尙貴電第一二號ニノ先方予想數量ニ付テハ出廻予想及歩留リニ付我方トシテハ議論ノ余地アルモ差當リ右ヲ基礎トスル外ナク五月中旬ニ於ケル再検討ヲ期スル次第ナリ

三、佛國及植民地向留保ニ付テハ冒頭貴電ニノ次第ハアルモ前記ニノ事情ト共ニ東亞カ戰場トナリ佛國向輸送ノ見込ナキ今日徒ニ体面又ハ形式ニ捉ハレテ後ニ紛議ノ餘地(昨年度ノ經驗參照アリタシ)ヲ殘スノ愚ヲ篤ト了解セシメラレ前記別電三ヲ以テ満足スル様極力說得セラレタシ四、上海向ニ付テハ昨年交渉ノ當時トハ情勢一變シ租界ハテ我把握下ニ入ルト同時ニ租界ニ對スル食糧供給(三十萬廻程度ハ必要ノ見込)ノ全責任ヲ負擔スルヲ以テ上海全体ヲ通ズル米價公定、計畫的配給等強度ノ統制實施ノ

筈ニシテ米ノ買付、輸入、配給ニ付テハ他ノ大東亜地域  
ト睨合セ我方ニ於テ一元的ニ行フヲ要シ從テ佛祖界ノミ  
ヲ別個ニ取扱フヲ許サス本年度上海向(十萬噸)留保ハ之  
ヲ承認シ難シ(但シ在上海佛商ニ對シ或程度ノ米取扱ヲ  
許シ收入ヲ與フルコトハ考慮ノ余地アルベシ)

五、軍用米ニ付テハ陸軍經理部ノ予想ニ依レバ佛印泰駐屯軍

ヲ含ム南方作戰軍消費米ハ毎月佛印米四千五百噸、泰米

六千五百噸ヲ要スル見込ナル外新占領地民衆用トシテ相  
當量ノ米ヲ軍ヲ通ジテ供給ノ要アル處計劃的分配ノ必要

上本年度ハ協定ニ依リ佛印米全部ヲ確保シ其ノ内ヨリ融

通スルコトニ決定セリ(陸軍農林省了解済)依テ別電六、ノ

了解ヲ取付ケ置クヲ要ス尤モ場合ニ依リ佛印駐屯軍ニテ

或程度現地調弁ヲ行フコトアルベキコトハ含ミ置カレ度

シ

六、米ノ銘柄ニ付テハ日本向供給米ハ已ヲ得ザレバ二號米ト  
スルコトハ差支ナキモ全輸出米ヲ取得ノ關係上協定上ハ  
矢張リ一號米及二號米ノ別ヲ設ケ且軍用米ヲモ考慮シ特  
等米(西貢發貴使宛電報第四六號)ヲ追加スルコトト致度

シ

六、引渡方法ニ付テハ累次電報ノ如ク今後船便不規則トナル  
ベキヲ以テ腹腹ナキ場合ニモ買手倉庫渡シノ方法ニ依リ  
規則のニ協定數量ノ引取ヲ爲シ「ストツク」シ置クコト  
ト致度シ(倉庫手配中)

八、價格ニ付テハ別電ス

別電ト共ニ西貢ニ轉電アリタシ

### (別 電)

本 省 1月24日発

#### 第七八號(大至急)

一、佛印ハ本年度中白米、碎米及米粉ノ輸出可能量全部ヲ曰  
本ニ供給スルコトヲ約ス

二、右供給量ハ一應本年度輸出用粗出廻予想數量百六十萬噸  
ヲ基礎トシ、白米八十八萬噸、碎米(一、二號)十一萬二

千噸、同(三號)三萬二千噸、米粉十二萬八千噸ト豫定ス

但シ五月中旬粗出廻量ヲ兩當事者間ニ再檢討シ日本向供  
給量ヲ確定ス粗出廻數量ガ百六十萬噸ヲ超ユル場合ハ右  
超過量ヨリ生ズル白米、碎米及米粉ノ全量ハ日本向供給  
量ニ追加セラルベシ

三、佛國及植民地向ヶ輸送可能トナル場合ハ同地向ヶ積出シ

得ル數量ハ輸送能力及日本向供給ノ狀況ヲ考慮シ兩當事者間(混合委員會)ニ於テ協議決定スベシ

四、五月迄ニ至ル毎月引渡數量ハ二月八萬噸(内白米十一萬噸)トス

七萬噸)三、四、五月各十二萬噸(内白米少ク共

六月以降ノ供給量ハ五月中旬迄ニ協議決定ス

五、引渡方法ハ船渡シ及買手倉庫渡シノ二方法ニ依リ佛印ハ前記四、ノ「スケデュール」ニ從ヒ日本側機關ニ引渡スコト尙毎月ノ引渡ノ細目ハ混合委員會ニ於テ決定ス

六、日本政府ハ前諸項ニ從ヒ白米等ヲ引取ルベク且之ヲ日本及日本軍ノ支配下ニ在ル諸地域ノ消費ニ充テ得ルモノトス

貴電第八九號ニ關シ

一、軍需米並ニ支那及新占領地民需米モ原則トシテ今次協定中ニ含メテ確保スルコトニ方針決定ヲ見タル處(往電第

七七號)各地ノ民需米供給量ニ付テハ日滿支ノ需給ト睨

合セ綜合的計劃作成中ナルガ差當リ我方買付佛印米中ヨリ上海ニ月約一萬噸ヲ供給スル外南支、香港、比律賓等

ニ對シテモ各地ノ需給ニ應ジ隨時所用量ヲ供給スルコトトナル見込ナリ

二、買付輸送方法ニ付テハ新占領地ニ對シテハ貿易ハ一切國庫差當リ軍特別會計ヲ通ジテ行ハルルヲ以テ民需米モ農林省所管ノ買付米ヨリ軍ノ機關ニ提供シ軍ニ於テ積出輸送ヲ爲ス筈ナリ

三、貴電末段ノ七萬五千噸ハ日本向ニシテ三月中旬軍用船腹ノ餘裕生ジタルヲ以テ農林省ヨリ右利用ノ機ヲ失セザル様準備方指令シタルモノナリ

西貢ニ轉電アリタシ

「大東亜共榮圏」における食糧需給の見込み

について

854 昭和17年1月27日

(東郷外務大臣より  
在仏印芳沢大使宛(電報))

本省 1月27日後8時30分発

第八三號(極祕)

昭和17年1月29日

在タイ坪上大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

マレー方面の食糧需給及び「大東亜共栄圏」  
内への米供給の必要性などにつき報告

バンコク 1月29日後発  
本省 1月30日前着

## 第一八七號

一、馬來方面ノ食糧ハ軍需ニ付テハ五月頃迄手當濟ノ趣ナル  
モ民需ハ相當窮屈ナルヲ以テ輸送ノ現況ヨリ見テ今ヨリ  
手配スル要アリト認メラレ右ニ付總軍司令部經理部長ト  
モ聯絡セシ處右ハ日本本動トノ見合モアリ中央ニ意見具  
申セシントコトニ付協議アリタク尙佛印「タイ」緬甸ノ  
米穀ヲ日本其ノ他東亜共栄圏内諸國ヘ配給スルコトニ付  
軍ト協力シテ統制ノ要緊急ナルニ付現地軍トモ非公式ニ  
協議中ナルモ中央ニ於ケル方針竝ニ取扱ニ付至急承知致  
度シ

二、緬甸方面軍政ニ關シ産業關係奏任官五名トシテ現地軍當  
局ヨリ上申申中ノ趣ニシテ右ノ中一名ヲ食糧關係ト致度キ  
旨軍側ニ非公式ニ申出タルモ若シ人員ノ關係上五名中ニ

入ルコト困難ナル場合ニハ出張ノ形式ニテ軍ノ囑託トス  
ルコトトシ至急人選ヲ農林省ニ依頼セラレタシ人員派遣  
ノ能否至急返電請フ

三、「タイ」米價格協定ニ關シテハ皇軍進駐後ノ價格ヲ以テ  
當分ノ中綱價格ヲ安定セシムル方針ヲ以テ現在ノ綱價格  
ヲ抑ヘ夫ヨリ白米價格ヲ算出スルコトニ付「タイライス」  
社ト協力シテ具體的數字ヲ基礎トシテ連日協議中ニシテ  
右ノ結果ニ基キ更ニ「ワニット」ト協議スル方針ナルモ  
只今ノ處右技術的研究ノ結果ハ「ナンバーワン」ニ付  
「ピカル」當リ裸七「バーツ」ヨリ七「バーツ」五〇  
「サタン」見當ニ落着スルモノト豫想スルモ決定ニ當リ  
テハ更ニ上申ノ見込ナリ  
尙價格決定ノ上ハ數量ノ協議ニ入ルヲ要スルモ先般買付  
ノ一五萬噸ノ他新ニ三〇萬噸ヲ上半期分トシテ協定致度  
ク右三〇萬噸ハ必スシモ全部ヲ内地ヘ振向クル趣旨ニ解  
スルノ要無ク必要ニ應シ支那馬來方面ノ需要ニモ振向ク  
ルコト致度ク右ノ數量ニ付至急御意見承知致度シ

~~~~~

昭和17年2月3日

在タイ坪上大使より
東郷外務大臣宛(電報)

タイ米等の総合的統制と買付け及び配給について

バンコク 2月3日後発
本省 2月3日夜着

第一二八號

貴電第一二三號ニ關シ

一、「タイ」米、佛印米及緬甸米ヲ綜合的ニ統制シ買付ケ配
給ヲ爲スコトニ關シテハ總軍司令部經理部長先般來盤ノ
際談合セシ處同部長モ同趣旨ニ贊成ヲ表シ又馬來其ノ他
ノ地區ヘノ配給ニ際シテハ右趣旨ニ基キ協力スヘキ旨述
ヘラレタリ尙右ニ關シ詳細ハ目下中央ニ具申申ニシテ香
港當局ヨリ毎月一萬噸ノ佛印米ノ要求ハ之ヲ一應拒絕シ
英領「ボルネオ」ニ對シテハ佛印碎米若干ヲ輸送手配セ
ル趣ナリ

二、陸軍軍當局ヨリ「タイ」米買付ノ爲友崎少尉派遣ノコト

事實ナリ總軍司令部ヘ申出ノ要旨ニ依レハ宣撫米トシテ
毎月華僑送金ヲ以テ「タイ」米ヲ買付ケ「ジャンク」等
ニテ輸送致度シトノコトナリ右ニ關シテハ偶々當地ニ出

857 昭和17年2月4日

在タイ坪上大使より
東郷外務大臣宛(電報)

本件至急農林省ニ移牒セラレタシ

つき意見具申
ビルマ占領後におけるビルマ米の輸入方途に

バンコク 2月4日後発
本省 2月5日前着

第一二八號(至急)

856

昭和17年2月3日

在タイ坪上大使より
東郷外務大臣宛(電報)

張中ノ總軍司令部經理部ムマタ少尉竝ニ十五軍當局ニ對
シ本二日柴野ヨリ夫々南方米穀統制ノ趣旨ヲ説明シ日本
政府ニ於テ一括買付ヲ爲シ之ヲ夫々ノ地域ニ配分シ日本
内部ニ於テ競合シテ買付ヲ爲スコト無キ様致度キ旨ヲ申
述ヘタリ御來示ノ東亞米穀配給計畫案ハ未着ニテ御方針
ヲ詳細ニ知ルコトヲ得サルモ本件ハ陸軍及海軍ノ管轄區
域全般ノ要求ト日本ノ要求トヲ見合セテ具體的ニ配給數
量及方法ヲ協議スル必要アルモノニ付中央ニ於テモ陸海
外當局ト協議セラレ決定セル計畫ヲ各地陸海軍及外務出
先機關ニ對シ夫々御通牒相成度シ

一、「ビルマ」米ハ年額輸出餘力三百五十萬噸ニ及ヒ治安維

持上ヨリ見ルモ日本軍占領後ニ於テハ日本ノ手ニ依リ集

買ヲ爲ササルヘカラス而モ運送貯藏等ノ現況ヨリ見テ從

來ノ如ク蘭貢ニテ白米ニテ買付ヲ爲スノミニテハ處理困

難ナルヲ以テ一定計畫ニ從ヒ「ビルマ」内ノ各出廻リ地

ニ於テモ糲ニテ集買シ順次蘭貢ニ輸送スルヲ適當トス軍

作戰進捗ノ狀況ニ鑑ミ集買及貯藏ノ方法集買價格等ニ關

シ關係廳ト協議シ速ニ方針ヲ樹立セラレタシ又右ニ要ス

ル人員配置ニ付テモ考慮相煩度シ

二、「ビルマ」米ノ買付ハ從來ハ専ラ日本棉花ヲシテ爲サシ

メタルトコロ「ビルマ」占領後ノ複雜ナル關係特ニ印度

トノ微妙ナル關係ニ鑑ミ寧ロ三井ヲ活用スルニ如クハナ

シトスル意見當方面派遣軍ニアルヤニ聞ク右ニ關スル御

方針承知致シタク尙此ノ際大東亞ノ新情勢ニ鑑ミ米穀ノ

圓滑ナル配給ノ爲ニハ佛印、「タイ」、「ビルマ」ニ亘リ

米穀ノ買付ヲ各社ノ「プール」計算ニスルカ又ハ新ナル

組織ヲ作り各商社ノ米穀ニ關スル事業ヲ防止スルコト適

當ト認メラルニ付御考究相煩度シ

~~~~~

## 七 「大東亞共榮圈」における食糧問題

858 昭和17年2月10日

在サイゴン内山公使より  
東郷外務大臣宛(電報)

### 米積取及び輸出手續簡略化に関するドクーと の会談について

サイゴン 2月10日前發  
本 省 2月10日後着

#### 第一一九號

本官發河内(大)宛電報

#### 第一一九號

往電第一一三號ニ關シ

九月蓑田同伴「ドクー」總督ニ會見食糧問題ハ目下日本ニ

取り極メテ重要ニシテ佛印カ軍事的ニ相當日本ニ協力シツ

ツアルニ經濟的方面ニ於テハ如何ニモ協力ノ誠意ナキカ如

キ感ヲ與ヘツツアルハ甚夕面白カラス總督トシテ此ノ際政

治的見地ヨリ御會談アリタシト警告的注意喚起ヲ爲シタル

ニ經濟部門ニ於テモ自分ノ權限内ノコトナラハ何ナリトモ

協力スル用意アリト云ヘルニ付米積取及輸出手續簡易化ノ

二問題ヲ提出シタルニ本件ニ付テハ「マルタン」ノ意見ヲ

徵スル要アリトテ之ヲ呼出シ種々應答ヲ重ネタルカ結果左

ノ通り

(一) 米積取りニ關シ二月乃至五月分トシテ毎月十一萬噸(白米十一萬噸、碎米一萬噸但シ碎米カ一萬噸ニ達セサルトキハ不足額ハ米粉ニテ供給スルコトヲ得)ヲ提供アリタシトノ書キ物ヲ示シタルニ三月以後ニ付テハ御希望通り御引受スヘキモ二月分ニ付テハ既ニ三井ニ通報セル數量(冒頭往電)以上ハ困難ナリト云ヘルニ付(二月分トシテ更ニ白米二萬噸碎米五千噸ノ提供ヲ受ケタシ)〇萬一右不可能ノ場合ニハ不足額ハ三月以後ノ分ニ追加提供アリタシト主張シタル處總督ハ從來共日本側ノ要求満足ニハ充分努力シ居ル次第ナルカ此ノ際更メテ出來得ル限り右ノ御希望ニ副フ様努力致スヘシト述ヘタリ

(二)<sup>(2)</sup> 輸出手續簡易化ノ問題ニ付テハ先般來當地軍側及民間業者ヨリ急速解決方強キ要求アリ偶々總督ノ當地滯在中ナルヲ幸ヒ米其ノ他ノ引渡方法トシテ從來ノFOBノ他ニ倉庫渡ノ便法ヲ設ケサルヘカラスト述ヘテ詳細ナル理由書ヲ手交シ

(イ) 船渡ノ場合ニハ船名出帆日及仕向地ノ申告ヲ輸出許可乃至通關許可ノ必須條件トセサルコト

(ロ) 倉庫渡ノ場合ニハ倉入ノ時ヲ以テ輸出、稅關及船積ニ關スル總テノ手續カ完了シタルモノト看做ス  
トノ二點ヲ書物トシタルモノヲ示シ同意ヲ求メタル處總督ハ右申出ハ戰時中至極尤モニシテ主義上贊成ナルニ付九日當地發歸任ノ「マルタン」ヲシテ河内ニ於テ大至急關係方面ト協議セシメ自分(總督)ノ河内歸還(十三日ノ豫定)ヲ俟チ急速實現方取計タシト答ヘ會見約一時間ニシテ別レタリ

先方ニ手交シタル前記書物至急郵送ス  
大臣ヘ轉電セリ

~~~~~

859 昭和17年2月17日 東鄉外務大臣より

在タイ坪上大使宛(電報)

ビルマ米の買付け方法につき回訓

本省 2月17日後8時30分発

第二〇四號

貴電第二二八號ノ(二)ニ關シ

緬甸ヲ含ム大東亞共榮圈全地域ノ食糧對策上各地ニ於ケル統制買付及圓滑ナル配給ヲ期スル爲國策機關ノ創設方目下

關係廳ニテ研究中ナルカ右實現ニ至ル迄ハ從來ノ日本棉花ヲシテ緬甸米買付ニ當ラシムルコトニ關係廳ノ意見一致シ居リ三井利用云々ハ軍中央部ニテモ未タ考慮シタルコトナキ趣ナリ

860

昭和17年2月18日

在タイ坪上大使より
東郷外務大臣宛(電報)

タイ米買付けに関するタイ側との交渉振りについて

バンコク 2月18日後発
本 省 2月19日前着

第一九七號

「タイ」米買付ニ關スル柴野「ワニツ」間ノ交渉ハ借款爲替問題ト並行シテ之ヲ繼續セシメ爲替關係ヲ除外シ現状ヲ基礎トシテ價格ニ關スル双方ノ意見ヲ明確ナラシメントシタルモ「ワ」ハ「タイ」米ノ日本ヘノ供出ヲ政府間ノ經濟交渉ニ依リ決定スルコトヲ避ケ從來ノ如ク單ナル商取引トシテ數箇月ノ限月ニテ一回精々一〇萬噸程度ノ取引ト致度ク全面的ニ「タイ」米ノ供出數量及價格ヲ協定スルコト

ニハ政治問題ニモアリ自分一個ニテハ取計ヒ兼ヌルニ付本使ヨリ「ピブン」ニ直接申入レ「ピ」ヨリ「ワ」ニ命令スルノ手續ヲ取ルコト致度キ意嚮ヲ洩ラセリ察スルニ「タイ」側トシテハ大東亞圈内ノ經濟力總テ日本ヲ中心トシテ綜合的ニ處理セラルヘキハ知ラサルニアラサルモ出來得レハ「タイ」國市場ヲ從來ノ如ク自由市場ト爲シ或ハ環境ニ應シ有利ニ處理セント欲シ又ハ爲替問題ニ關スル交渉ニ伴ヒ或ハ「タイ」米ノ取引ヲモ解決スル機會アルヤニ期待シツツアルモノノ如シ從テ此ノ儘「タイ」米ニ關スル交渉ヲ柴野「ワ」間ニ繼續スルモ結局ハ爲替問題カ或程度了解ニ至ル迄ハ遷延策ヲ講スルナラント察セラル就テハ適當ナル時期ニ於テ爲替問題ト共ニ「タイ」米ニ關スル經濟協定ノ締結方モ本使ヨリ直接「ピ」ニ申入レタル上具體的ニ交渉ヲ遂行スルコト致度シ尙「ワ」ハ「タイ」米ニ關スル交渉中屢々日本側カ供給シ得ヘキモノノ數量及價格ニ關シテハ未タ何等日本側ヨリ明確ナル意見ノ表示無ク「タイ」側ヨリ供給スヘキモノノミニ付テ協定セントスルハ極メテ不公平ナルヤノ如キ意ヲ洩ラセリ

日仏印経済問題に関するドクーとの会談内容
について

ハノイ 2月22日後発
本省 2月23日前着

⁽¹⁾ 第二四九號

往電第二三六號本使「ドクー」總督會談ノ際經濟問題ニ關スル應酬振り左ノ通り

本使ヨリ經濟方面協力ノ具體的問題ニ入りタントテ

「現在進行中ナル經濟交渉ハ双方ノ了解ニ依リ兩者ノ主張モ可ナリ接近ヲ示シ米ノ數量ノ如キモ大體日本ノ要求カ容認セラルニ至リタルハ喜ハシキコトナルカ米ノ價格米及玉蜀黍ノ管理委員會ニ日本側委員追加入問題其ノ他二、三

ノ未解決問題アリ此等諸點ヲ至急解決セシムル様貴總督ヨリ關係當局ヘモ申渡シ御願ヒ致度ク或ハ價格ノ點ハ早速解決モ困難ナルヘキモ前記管理委員會加入問題ハ是非實施セシメタク若シ正式委員トシテノ加入カ困難ナラハ「オブザーバー」トシテノ出席ヲ容認セラルコトニテモ可ナルヘシ

又軍費問題ニ關シテハ昨年要求ノ追加軍費殘額及本年度經常費ニ付追テ御依頼スルコトアルヘキ處其ノ際ハ當方要求ヲ容レシムル様豫メ御願ヒ致シ置キ度シ次ニ目下話合進行中ナル大麻問題ノ如キモ總務長官等ノ御協力ニ依リ成功ヲ見ルトセハ日佛印共同ニテ重要ナル事業カ實現スルコトナリ誠ニ結構ナル事ト思ハレ又米ト綿ノ增産計畫ニ付テモ日佛印共同事業トシテ速ニ實現化希望セラレ其ノ前提トシテ不取敢日佛共同試驗場ノ如キモノヲ作ルコトモ適當ト考ヘラレ此ノ問題モ本使出發前ニ主義上ノ合意ノミニテモ成立セシメタク從テ貴總督ヨリ至急専門家ノ意見ヲ徵セラレ日本側關係者ト打合ノ上話合ヲ進捗セシメラル様切望ス以上ノ諸點ニ付日本政府ニ對シ貴總督御盡力振りニ關シ充分了解セシメタク存シ居ル次第ナリ」
ト述ヘタル處「ド」總督ハ

一、米ノ數量ハ自分ノ知ル限リニテハ三月以降ハ日本側ニ完全ナル御満足ヲ與フヘキモ二月分ニ付テハ稍困難ナル趣ナルカ既ニ「マルタン」ニモ訓令シ置キタレハ最大限度ノ數量ヲ差上クルコトトナルヘク閣下御出發迄ニハ何等御回答シ得ヘシ

二、米ノ價格ニ付テモ特ニ困難ナル問題アリトハ思ハレサル

モ出來得ル限り低廉ナル様命スルコトトスヘシ

三、米及玉蜀黍管理委員問題、軍費問題、大麻問題及米、棉

増産計畫實施案等ニ付テハ御申出ノ趣旨ハ誠ニ御尤モト

思ハルヲ以テ早速關係當局ト協議ノ上何レ閣下御出發

迄ニハ能フ限り友好的合意ニ到達スル様努力スヘシ

四、次ニ經濟問題ニ關聯シ日本政府ニ御傳達願度キコトノ大

分ハ從來ヨリ日本側ニテ約束シ居ラルル物資ヲ速ニ佛印

向送付セラレ度ク其ノ價格モ成ルヘク合理的ナルモノト

セラレ度キコトナリ第二ハ上海ヨリノ物資輸入問題ニシ

テ先般モ佛國船一隻カ殆ト空船ニテ上海ヨリ歸航セル事

實アリスルコトハ何等誤解ニ基クモノトハ思ハルモ船

腹不足ノ折柄是非日本側ノ好意的考慮ヲ願度シ

ト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ總督ノ各般ノ好意的考慮竝ニ出

發前ニ回答ヲ約束セルコトニ對シ感謝ノ意ヲ表シ尙最後ノ

點ハ本使モ承知セルヲ以テ既ニ本省ニ問合ノ電報ヲ發シ置

キタル旨答へ置キタリ

西貢公使、佛へ轉電セリ

七 「大東亜共榮圏」における食糧問題

862

昭和17年2月25日

東鄉外務大臣より
在仏印芳沢大使、在タイ坪上大使宛
(電報)

「大東亜共榮圏」内の食糧需給計画につき訓令

別電 昭和十七年二月二十五日

仏印芳沢大使、在タイ坪上大使宛合第三七三号

食糧取得予想量及び割当量

付記 昭和十七年三月四日付安倍(源基)企画院第六

委員会幹事長より宇佐美(珍彦)興亞院經濟部
長宛公信企画院總三発第三三号

右需給計画について

本省 2月25日後8時発

合第三七二號

一、大東亜各地ニ對スル食糧需給計劃ニ付テハ先般來企劃院

ニ於テ關係各廳ト協議シ研究中ナリシ處各地ニ於ケル食

糧事情緊迫ニ鑑ミ差當り取得可能ノ見込ナル泰國及佛印

ノ米竝ニ佛印及蘭印ノ玉蜀黍ニ付テ各地域ニ對スル割當

量ヲ決定スルコトトシ二十一日第六委員會幹事會ニ於テ

別電第三七三號ノ通暫定的配分計劃ノ決定ヲ見タリ

三、各地域ニ對スル割當量ハ日本ノ食糧事情ヲ優先的ニ考慮

シ今後右事情ニ變化ヲ來シ、又ハ輸出地ニ於ケル取得數

量ノ變更アル場合殊ニ「ビルマ」ヨリノ取得可能トナル

場合ニハ改訂ヲ加フル筈ナリ

三、買付及輸入ハ日本ノ一元的統制ノ下ニ實施スル方針ニテ

差當リ從來ノ買付機構即チ泰米ハ三菱、佛印米ハ三井、

「ビルマ」米ハ日棉、玉蜀黍ハ飼料配給、三井及三菱ノ

「プール」ニ依リ夫々擔當セシムルモノトス

四、從テ輸出地ヨリノ買付ニ當リテハ一應日本ニ於テ支拂ヲ

爲スコトトナルモ各地域トノ決済ハ別途措置スル筈ナリ

五、尙本計劃ハ一應配船關係ヲ度外視シテ作成シタルモノニ

テ配船計劃ハ別ニ考究スルコトトナリ居ル處配船事情ニ

依リテハ輸出地ニ於ケル各地域別割當數量ノ調整ヲ爲ス

コトトナリ居レリ

又本計劃實行上ノ細目ハ未決定ナルモ詳細決定次第追電

ス

別電ト共ニ河内ヨリ西貢ニ轉電アリタシ

合第三七三號

一、取得予想量

(單位ハ凡テ千噸)

佛印 白米及碎米 九六四

米粉 一二八

玉蜀黍 一七八

計 一、二八〇

泰國 米 一、一八六

蘭印 玉蜀黍 一四〇

佛印米及玉蜀黍ハ佛印側提出ノ本年度輸出予想量(米

其他一、一五二、玉蜀黍二〇〇)ヨリ軍ニ提供スペキ

南方軍用食糧及飼料ヲ除キタルモノ又泰米ハ本年度輸

出可能量ヲ一、三〇〇ト推定シ軍ニ提供スペキ軍用食

糧及飼糧ヲ差引キタルモノナリ

三、各地域ニ對スル割當量

日本 米一、四七五(佛印八六四、泰六一二)

北支(上海積換) 玉蜀黍二〇〇(佛印一八八、蘭印一二)

米粉三三(泰)

玉蜀黍一〇(蘭印)

本省 2月25日後8時発

(別電)

七 「大東亜共栄圏」における食糧問題

中支(上海積換) 米一五六(佛印四九、泰一〇七)

南支(香港積換) 米粉一八(佛印)

米粉四九(佛印三〇、泰六三)

香港 米九二(佛印一三、泰七八)

米粉一二(佛印)

澳門 米一三(泰)

米三四(泰)

玉蜀黍一七(蘭印)

馬來、昭南島 米一四八(泰)

玉蜀黍七三(蘭印)

蘭印 米三六(泰)

英領「ボルネオ」米一九(泰)

玉蜀黍一〇(蘭印)

英領「ニューギニア」「グアム」「ナウル」「オーシヤン」、「ビスマルク」「ソロモン」、大鳥島等

米二(泰)

豫備米 五〇(泰八、佛印四一)

封北、中、南支ニ對スル割當量ハ興亞院ニ於テ之ヲ綜合

シ各地ノ事情ニ應シ更ニ相互融通ヲ考慮スル筈ナリ

(付記)

企畫院總三發第三三號

昭和十七年三月四日

第六委員會幹事長
安倍 源基

宇佐美經濟部長殿

大東亞主要食糧需給ニ關スル暫定措置ノ件

標記ノ件二月二十四日付ヲ以テ第六委員會決定(興亞院ヲ含ム)ト相成候依テ左記書類別添送付候條御査收相煩度

記

一、大東亞主要食糧需給ニ關スル暫定措置ノ件(昭一七、

二、二四 第六委員會決定(興亞院ヲ含ム)

一、同右參考表(昭一七、二、二四)

一部

大東亞主要食糧需給ニ關スル暫定措置ノ件

(一七、二、二四第六委員會決定(興亞院ヲ含ム))

日本ノ指導ノ下ニ大東亞ニ於ケル主要食糧ノ需給ヲ調整ス

ルコトハ各地域ニ於ケル食糧事情ニ鑑ミ緊要不可缺ノ事項ナルヲ以テ茲ニ主要食料ノ配分、買付及輸入等ニ關シ左ノ暫定措置ヲ講ジ諸般ノ對策具現ニ違算ナキヲ期スルモノトス

記

一、主要食糧ノ輸出地ニ於ケル配分

別表第一ノ如ク之ヲ概定シ左ノ事情ニ應ジ適時概定量ヲ改訂スルモノトス

(一)日本ノ食糧事情ヲ優先考慮シ且之ニ顯著ナル變化ヲ來シタル場合

シタル場合

(二)輸出地ニ於ケル輸出數量ニ變更ヲ來シタル場合

(三)ビルマガ輸出地トシテ考慮シ得ルニ至リタル場合

二、買付及輸入ノ統制

日本ノ一元的統制ノ下ニ實施スルヲ方針トシ別表第一(省略)二

依ルモノトス

三、代金決済

別途措置スルモノトス

863

昭和17年3月7日

東郷外務大臣より
在サイゴン内山公使、在タイ坪上大使
宛(電報)

別表第一及び参考表は157頁及び158頁に掲載。

食米の国内配給増加のため外米買付け及び輸送措置方訓令

本省 3月7日後8時30分発

合第四四三號(外機密、至急、極祕)

一、最近副食物、代用食等ノ供給減少ノ影響ノ爲米消費増大シ從來ノ配給量ヲ以テハ各方面ニ深刻ナル飯米不足ヲ生シ重大ナル社會問題モ頻發シ寒心スヘキ狀態トナレルニ鑑ミ之カ應急的對策トシテ勞働者、青少年等ニ對シ重點的ニ特別配給ヲ行フコトトシ之力爲ニ外地米及外國米ノ輸移入增加ヲ圖リ其ノ輸送モ最優先順位ノ取扱ヲ爲スコトニ三月三日閣議決定ヲ見タリ

二、仍テ外米ニ付テハ三月以降十月迄萬難ヲ排シテ毎月西貢米十萬噸、泰米七萬噸合計十七萬噸ノ輸入ヲ實施スルコト

「大東亜共栄圏」における食糧問題

七

第一表

比 △ $R \triangle 50$ $W \triangle 55$	島 補 $R 34$ $T 17$	日本 △ 自國產米
105	51	$R 1,475$ $T 200$

馬 △ $R \triangle 450$ $W \triangle 3$	來・新 嘉坡 補 $R 148$ $T 73$	白國產米 △ 支
453	221	$R 1,405$ $T 420$

英 △ $R \triangle 55$ $W \triangle 3$	赤 補 $R 19$ $T 10$	北 △ 支
58	29	$R 1,825$ $T 420$

蘭 △ $R \triangle 50$ $W \triangle 60$	泰 補 $R 36$ $T 18$	中 △ 支
110	54	$R 1,86$ $T 10$

R △ $R \triangle 50$ $W \triangle 60$	1,186	支 △ $R 33$ $S 49$ $T 10$
$1,186$	92	$W \triangle 159$

中 △ $R 156$ $S 18$	支 △ $R 156$ $S 18$	支 △ $R 156$ $S 18$
174	92	$W \triangle 159$

南 △ $R 93$ $S 49$	支 △ $R 93$ $S 49$	支 △ $R 93$ $S 49$
142	$\triangle 247$	$R 156$ $S 18$

香 △ $R 91$ $S 12$	港 △ $R 166$ $W 13$	支 △ $R 91$ $S 12$
103	179	$R 156$ $S 18$

澳 △ $R 91$ $S 12$	門 △ $R 166$ $W 13$	支 △ $R 91$ $S 12$
103	179	$R 156$ $S 18$

R △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$
103	179	$R 156$ $S 18$

R △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$
103	179	$R 156$ $S 18$

R △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$
103	179	$R 156$ $S 18$

R △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$
103	179	$R 156$ $S 18$

R △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$
103	179	$R 156$ $S 18$

R △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$
103	179	$R 156$ $S 18$

R △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$	支 △ $R 91$ $S 12$
103	179	$R 156$ $S 18$

備考
自昭和17年1月・至同年12月ノ期間ニ於ル
佛印・泰及ビ蘭印ノ輸出米穀及玉蜀黍ノ地域別
配分ヲ示ス

△ $R 2,683$ $T 420$ $W 381$	△ $R 2,150$ $S 120$ $T 328$	△ $R 1,864$ $T 188$ $W 321$
$3,484$	$2,606$	$1,888$

△ $R 2,683$ $T 420$ $W 381$	△ $R 2,150$ $S 120$ $T 328$	△ $R 1,864$ $T 188$ $W 321$
$3,484$	$2,606$	$1,888$

△ $R 2,683$ $T 420$ $W 381$	△ $R 2,150$ $S 120$ $T 328$	△ $R 1,864$ $T 188$ $W 321$
$3,484$	$2,606$	$1,888$

參 第一表 大東亞主要食糧需給表

(單位千莊)
(四二七)

日本側は、軍事的・経済的情勢の変化により、資源供給が困難な状況が長期間続いている。そのため、資源を効率的に利用するための技術開発や、資源の代替品の開拓が進められている。また、資源の節約と有効利用のため、資源の再利用や資源循環システムの構築が推進されている。

三

二、日本側不足

數量補填ノ爲

六、要輸入數量計上計額

ヨリ月二年本モルセ

トトシ陸海軍軍用船ニ特別配船ヲ含メテ右積取ニ必要ナ

ヨ定期的二電報相成度シ

ル船腹ヲ優先配船スルコトトナレリ(配船計劃ノ詳細ハ
(省略)

別電ス

三、本件輸入計劃ノ實施ニ付テハ國民食糧問題ノ重要性ニ鑑
ミ陸海軍ニ於テモ更ニ出先ニ指令シ積極的協力ヲ爲ス等

配船状況ハ不規則ナルヲ免レザルベキニ鑑ミ常時極力多

量ノ米ヲ買付ケ我方ノ手ニ保有シ置クト共ニ荷役力ヲ改

善シ以テ輸矣。船復ノ能率的利用ヲ計ルコト必要ナルニ付。

（農林省二八六）「貯放料其」也アガ爲ニ必至ニル費用ハ

(農林省ニ於テハ倉庫料其ノ他之カ爲ニ必要ナル費用ハ

惜マヌ支出スル意向ナリ)右實行ニ遺憾ナキ様措置セテ

レタシ

四、今後本件計劃實施上ノ参考トスル必要アルニ付毎月十日、二十日及月末ニ於ケル

(イ)米(佛印二付テハ玉蜀黍ヲ含ム)ノ買付數量

(口)日本其他各地向(軍ニ提供ノ軍用米ヲ含ム)積出數量

(八) 同積出予定數量

(二) 日本側倉庫在庫數量

(示)其ノ他参考トナルヘキ事項

、三月二日ノ會談ニ於テ我方カ從來ニ引續キ價格据置ヲ主張セルニ對シ先方ハ佛印ニ於ケル物價(特ニ日本商品ノ價格)河川運賃及生計費ノ昂騰ヨリスレハ七割五分ヲ必要トスル計算トナルモ大東亞戰遂行中ノ日本カ犠牲ヲ拂

第三二六號

貴電第七六號二關シ

ハノイ 3月7日後発
本省 3月8日後着

864
昭和17年3月7日 在伊丹栗山事務総長より 東郷外務大臣宛(電報)

仏印米買付け価格に関する仏印側との交渉に

二

ヒテ佛印ニ對シ物資ヲ供給シ且其ノ價格ヲ安定セシメン
トスルノ意嚮アルニ對シ四割ノ値上要求ニ留ムヘシト述
ヘタリ

二、當方ハ之ニ對シ三日間ニ亘リ佛印ノ對日供給ハ單ニ數量
ノ豐富ニアルノミナラス又價格ノ低廉ニモ存スト爲シ冒
頭貴電(三)ニ掲タル理由ノ外

(イ)日本ヨリノ輸入物資ノ價格ヲ安定セシムル爲ニハ米價
ノ値上ハ不適當ナルコト

(ロ)米價ノ著シキ値上ハ佛印經濟ニ却テ惡影響アルヘキコ
ト

(ハ)佛印米ハ全部日本ニ供給セラルルヲ以テ價格統制ハ容
易ナルヘキコト

(二)玉蜀黍トノ價格關係ヨリシテ米價ノ値上ハ不可能ナル
コト

ヲ上ケ米價ノ値上ハ米ノ生産集荷ニ必要ナル最小限度ニ
留ムヘク其ノ範圍ニ於テノミ考慮ノ對象ト爲シ得ル旨ヲ

極力主張シタルニ昨年中ノ一般物價及生計費指數ノ昂騰
ヲ説明シ(往電第三二七號參照)依然先方案ヲ固執セリ

三、⁽²⁾依テ三月四日會談ノ終リニ於テ我方トシテハ米ノ生産集

荷ノ確保ノ爲ニ若干ノ調整ヲナス要ヲ認ムヘシトナシ若

シ昨年價格ニ比シ一割ノ値上ケニテ佛印側カ承諾セハ之
ヲ日本政府ニ取次キ之カ受諾ニ努ムヘシト述ヘタルニ三

月五日ニ至リ先方ハ我方ノ主張ヲ或程度認メ日本カ大東
亞共榮圈ノ共榮ノ目的ヲ以テ戰爭ヲ遂行シ居ル現在ニ於
テ佛印モ其經濟ヲ維持スルコトカ大東亞共榮圈ノ理想ト
一致スルモノト考ヘ米價ノ値上ヲ二割五分トナスヘキヲ
以テ日本側ニ於テモ佛印經濟保持ノ爲

(イ)對佛印供給物資ノ輸入ノ價格ヲ昨年末ノ水準ニ安定セ
ラルコト

(ロ)佛印ノ必要最少限度ノ物資ヲ供給セラルルコト
ニ付考慮セラレタシト述ヘタリ

右ニ對シ我方ハ

(イ)二割五分ノ値上ハ米ノ生産集荷ノ確保ニ必要ナル最少
限度以上ト認メラルルコト

(ロ)日本ノ對佛印供給物資ハ大部分輸入原料ニ依存シ而モ
當分原料補給困難ナルノミナラス國內ノ消費ヲモ抑制
シタル上ニテ輸出シ居ルモノナルモ佛印ノ輸出物資ハ
多ク土產品ニシテ而モ輸出餘力ニ過キサルヲ以テ彼我

ノ交易物資ハ全ク其ノ性格ヲ異ニスルコト

ヲ理由トシ當方一割案ヲ認ムルニアラサレハ先方申出ノ

條件ヲ日本政府ニ勸説シ得サル旨ヲ述ヘ更ニ再考ヲ促セ

リ

四、⁽³⁾三月六日會議ニ於テモ我方ハ一割値上ニ止ムヘキヲ主張

シタルニ先方ハ一割値上ハ到底佛本國ノ承認ヲ得ルコト

不可能ニシテ一割五分ノ値上ハ米ノ對日供給ト佛印經濟

保持ノ爲最小限度ノ要求ニシテ其ノ値上部分ノ八〇%ハ

農民ニ對スル集買價格ノ引上ニ當テ二〇%ハ財政上ノ收

入ニ繰入レ農業施設費ニ充當スル要アリト固執シテ讓ラ

ス當方亦一割ヲ固執シテ論議ヲ重ネタルカ先方ハ日本ノ

大東亞建設ニ飽迄協力スヘク幼稚ナル佛印經濟保持ノ認

識ヲ懇願シツツ佛側トシテハ二割五分ノ値上ハ必要ノ最

小限度ナルコトヲ確認シ居ルモ真ニ日本政府カ經濟保持

上最小限度ノ佛印側ノ要望ヲ充足セラルニ於テハ本國

政府ノ勸説ニ努メ一割五分ノ値上ヲ多少減スルコトヲ得

ヘシト述ヘタリ

~~~~~

七 「大東亞共榮圈」における食糧問題

865

昭和17年4月10日

東鄉外務大臣より  
在仏印栗山事務總長宛(電報)

### 仏印米買付け価格に関する交渉方針訓令

本省 4月10日後5時35分発

第三五〇號(外機密、館長符號扱)

一、米價ニ關シテハ既ニ電報シタル通泰米價格ヨリ高ク決定

スルコト不可能ニシテ日泰交渉ト睨合セ交渉スル要アル

處日泰爲替比率ヲ一對一トセントスル我方提案ハ本月二

十二日前後實現ノ運ビトナルヘク且下東京ニテ交渉中ノ

貿易協定ノ大綱ニ付テモ同日頃迄ニ略決定ノ予定ナリ

(本項絕對極祕)而テ泰米價格ニ付テハ當初現地價格高カ

リシ爲新爲替比率實施後ノ價格モ相當高ク決定スル必要

アルヘシトノ予想ナリシ處其ノ後現地相場モ下落シ居リ

各方面トモ打合セ研究ノ結果新爲替比率ノ下ニ於テモ精々

一「ピクル」八「バーツ」三十見當ヲ至當トスルヲ以テ

右程度ニテ妥結ヲ期スルコトトナリ既ニ泰側ニモ右價格

ヲ申入レ濟ミニテ本件モ何レ二十日前後迄ニハ見透シツ

ク見込ナリ

二、泰米價格力右ノ通り決定ヲ見ル場合ハ佛印米價格モ均衡

上昨年度價格ノ一割増見當ヲ至當ト思考スル次第ナルカ  
佛印側トノ話合モ今日迄既ニ概々議論ヲ盡シ居リ先方ノ  
要望スル物資供給及本邦品ノ價格安定ノ二點ニ付テモ充  
分ナル満足ヲ與ヘ難キ次第ナルヲ以テ泰米價格ノ決定ヲ  
俟テ我方ノ最終的意向ヲ示シ政治的ニ受諾セシムルコト

減退ヲ招キ却テ先方ノ不利トナルヘシ仍テ本邦品價格ニ  
付テハ是非共必要トアラバ米價トハ無關係ニ「日佛印兩  
國政府ハ兩國商社ヲ監視シテ不當ナル價格引上ケヨ行ハ  
シメサル様努力スヘシ」トノ「ライン」ノ約束ヲナス程  
度ニ止ムルコト致度シ

西貢ニ轉電アリタシ

866  
昭和17年4月14日

東郷外務大臣より  
在仏印栗山事務総長、在タイ石井代理  
大使宛(電報)

## 「大東亜共栄圏」内の食糧需給計画の修正に

ついて

本省 4月14日後7時55分発

合第六六七號

往電合第三七二號ニ關シ

今般日本ノ外

得ヲモ見込ミ往電合第三七二ノ需給計劃ヲ左ノ通修正スル

ヨトニ決定セリ

### 一、取得予想量（単位千疋以下同シ）

ビルマ米一〇〇〇ヲ追加ス

結局商品ハ有利ナル他市場ニ惹キ付ケラレ佛印向輸出ノ

二、各地域ニ對スル割當量

日本 米 一、九四四(佛印八四二、泰七五四、ビ  
ルマ一四八)

馬來 米 一四八(泰四七、ビルマ一〇一)  
玉蜀黍 二〇〇

玉蜀黍 七三

第一予備米 五〇(佛印三〇、ビルマ一〇一)  
第二予備米 七三一(ビルマ)

右ノ外ハ變更ナシ

河内ヨリ西貢ニ轉電アリタシ

~~~~~

867 昭和17年4月15日 在仏印栗山事務総長より
東郷外務大臣宛(電報)

仏印米買付けに関する仏印側との交渉をふま
え新たな交渉方針請訓について

ニ依レハ日本政府ハ米ノ買取價格ヲ昨年度ヨリ一割増以上
ニハ應シ兼ヌルトノ意嚮ナル由ヲ告ケ右ニ對スル本官ノ推
察スル理由ヲ述ヘ日佛印双方ニテ犠牲ヲ忍フノ他解決ノ方
法ナキヲ以テ右考究方ヲ申入レタルニ「ド」ハ右ヲ諒承セ
リ其ノ後府員他用ヲ以テ「マルタン」ト會談シタル際「マ」
ハ總督ヨリ右様ノ指令ヲ受ケ居ラサル旨ヲ告ケタル趣ナリ
シヲ以テ四月九日本官外交部長ヲ招致シ三日本官ヨリ總督
ニ申入ノ件ニ付未タ研究ヲ開始シ居ラサル由ナル處佛印當
局カ米價ノ増額要求ヲ七割五分ヨリ四割ニ二割(三日
「ドクー」ハ二割ト言ヒ二割五分トハ言ハサリシ所ヨリ見
レハ佛側ハ二割迄諦メ居ル様見受ケラレタリ)ニ引下クル
(カ如キハ駆引ノ甚タシキモノナルコト又佛印側ハ經過ヲ
取得物資ノ價格安定ニ關聯セシメ居ルモ米ハ日佛印政府間
ノ賣買ナルニ反シ他ノ物資ハ普通ノ商取引ニ依ルモノニシ
テ兩者ノ價格ヲ結ヒ付クルカ如キモ佛印當局トシテ誠意ヲ
缺ク所以ナリ我方トシテハ米ノ價格矯正ニ當リ佛印側カ誠
意ヲ示スニ於テハ日本ノ輸出カ政府ノ統制下ニ在ルニ鑑ミ
佛印向輸出商品ノ不當ナル價格吊上ヲ抑制セシムル様中央
政府ニ斡旋方盡力シ得ヘシ就テハ總督ニ於テ至急事務當局

七 「大東亜共榮圏」における食糧問題

第五二三號(大至急)

四月三日本官「ドクー」總督ヲ往訪シ芳澤大使ヨリノ内報

ヲシテ再検討セシメ其ノ結果ヲ承知シタキ旨總督ニ傳達方
要求セリ

更ニ翌十日外交部長本官ヲ來訪ノ際同官前日本官トノ會
談ノ次第ヲ總督ニ傳ヘタル處總督ハ本官ヨリ文書ノ申入ヲ

期待シ居レリト言ヘルニ付本官ハ元々芳澤大使ヨリノ内報

ニ依ルモノニシテ文書ヲ以テ申入ルヘキ筋合ノモノニ非ス

兎ニ角至急檢討ノ結果ヲ承知シタシト繰返シ置キタル處同

日夕刻同部長ノ宴會ニテ同部長ハ總督ハ一割値上ニ應諾ス

ル内意ナル旨ヲ内報シタルニ付其ノ儘ニ聞キ流シ置キタリ

然ルニ十四日外交部長本官ヲ來訪ノ際「ドクター」ハ米價一

割増ニテ犠牲ヲ忍フヘキモ日本ヨリノ取得物資ノ價格安定

ニ付保障ヲ得タキ意図ヲ有スル旨告ケタル上右ノ「ライン」

ニテ「マルタン」ヲシテ相馬總領事ト話合フ様「マ」ニ申

付ケタル旨ヲ述ヘタルニ對シ本官ハ東京ヨリ唯今電報ニ接

シタル處(貴電第三五〇號ヲ意味ス)夫レニ依ルモ日本政府

ハ一割以上ノ値上ニ應諾シ得サルコト竝ニ價格安定ニ付テ

モ日本貿易會ニテ努力中ナルモ佛印側カ此ノ點ヲ餘リニ

「インシスト」スルトキハ佛印ニ物資カ來ナクナル惧アリ

トノコトナリ尤モ右電報ハ不明ノ點アルニ付再電請求中ナ

ルカ此ノ點ニ關シ佛印側ニ満足ヲ與フルコト仲々困難ナル
カ如シ但シ佛印側ニテ此ノ問題ニ付本官カ認メテ「リーズ
ナブル」ナル「フォームラ」ナリト思考スルモノアラハ取
次クヘキニ付考究セラレタシト答へ置キタリ

就テハ貴電第三五〇號末段十五日再電アリタル處末段御來

示ノ「ライン」ハ餘リニ賴リナキ様思考セラル折角先方カ

政治的ニ一割値上ニテ妥結セント申出ツル以上我方トシテ

モ具體的ニ或ル種ノ満足ヲ與フルコトシタク切メテ綿製

品丈ケニテモ現在ノ價格据置等ノ方法ニ依リ妥結シ得サル

モノナリヤ右至急御檢討ノ上結果何分ノ儀御回電アリタシ

西貢ヘ轉電セリ

~~~~~

868 昭和17年4月20日 在サイゴン内山公使より  
東郷外務大臣宛(電報)

### 現場での食糧積出困難に鑑み食糧配分計画の

#### 政府内統一を要請について

サイゴン 4月20日後発

本省 4月20日夜着

## 七 「大東亜共栄圏」における食糧問題

兵站總監部ヨリ總軍宛兵總甲第一九三號ニテ香港向トシテ  
西貢米一萬噸發送方指令アリタリ又總軍ノ計畫トシテ西貢  
米約三千噸ヲ比律賓宛急送方突然申出アリテ既ニ積取船モ  
入港シ二十日ヨリ荷役開始ノ準備アルヲ以テ是非積込マシ  
ムル様強キ希望アリ

貴電合第六七二號及合第六七四號ノ次第モアルカ往電第三  
八一號及本件ノ如ク計畫外ノ強キ希望アルハ要スルニ企劃  
院審議ノ結果カ關係方面ニ熟知セラレサル爲ト存セラル  
前記香港向ハ貴電第一七六號ト同一事情ノモノトモ思料セ  
ラルモ未タ取消ナシ

比律賓向ハ總軍側ニテ行先ヲ祕匿シ軍用米トシテ軍用船ニ

積込ム場合當支部トシテ積込拒絕ハ困難ナリ

要スルニ輸送船舶ト別個ニ食糧配分ヲ計畫セラレタル場合  
船舶ノ實情ニ應シ積出地ノ變更ヲ來ス惧ハ免カレサルヘク  
總軍ニテハ南方圈内ノ物資ノ交流ハ物動ニテ承認サレタル  
總數ノ範圍内ニテ適宜處理シタク積出地ト仕向地トノ連繫  
並ニ月別配分計畫ノ如キハ現實問題トシテ實行上支障ヲ來  
スコト多シトノ意見アリ

當方取扱上ノ困難アルニ付今後食糧配分ハ單一ノ綜合的計

畫ニ依リ運用シ得ル様關係方面ト御連絡ノ上差當リ前記二  
件ニ關シ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ  
河内へ轉電セリ

869 昭和17年4月24日 東鄉外務大臣より  
在仏印芳沢大使宛(電報)

### 仏印米買付け交渉方針訓令

本省 4月24日後6時50分発

第四〇四號(大至急)  
貴電第五六九號ニ關シ

一、割増ニテ妥結セラレタシ

尙日泰交渉ハ二十一日妥結ヲ見タルガ泰米價格ニ付テハ  
當初ノ予定ヨリ多少高クFOB盤谷又ハ「コーンチヤン」  
九「バーツ」六〇(輸出稅ハ含マズ)ト決定ヲ見タルガ右  
ハ泰國カ我同盟國トシテ共同シテ戰鬪ニ從事シツツアル  
コト、今般「バーツ」ノ大巾切下ヲ實行シタルノミナラ  
ズ兩國間ノ一切ノ支拂ノ決済ヲ特別圓ニ依ルコトニ同意  
シタルコト等ノ特別ノ理由ニ基キ政治的考慮ヲ加ヘタル  
ニ依ル次第ナリ泰米買付價格ハ勿論公表セサル筈ナルガ

今後若シ佛印側ニ於テ之ヲ探知シ佛印米買付價格トノ差  
(麻袋込價格トシテ佛印米約一五〇圓、泰米約一八五圓  
見當トナル)ニ付苦情ガマシキ言ヲナス如キ場合ニハ可  
然右趣旨ニテ應酬セラレタシ

二、綿製品ノ價格据置保障(貴電第五一二號末段)ニ關シテハ  
目下商工省ニ於テ研究中ナル處現行價格ヲ引上ゲザル方  
針ヲ取ルコトハ原則上異議ナキ見込ナルガ唯之ヲ明確ナ  
ル保障ト爲スコトニ付テハ困難ナル問題アリ即チ我輸出  
品ハ佛印米ノ如ク政府機關ニ於テ買上ゲタル上輸出スル  
モノニ非ズ輸出商談ハ各商社夫々自己ノ採算ニ依リ之ヲ  
爲シ其ノ結果ヲ共同機關タル組合ニ於テ監督シ居ルモノ  
ナルヲ以テ政府トシテ明確ナル約束ヲ爲サントセバ一定  
價格ヲ超ユル輸出商談ニ對シテ輸出許可ヲ與ヘザル措置  
ヲ採ルノ外ナルベシ然ルニ自然ノ値上リニ依リ商社ノ  
採算悪化シ(此ノ傾向濃厚ナルコト往電第三五〇號ノ通)  
各商社ガ佛印向商談ヲ差控フルニ至ル場合協定量ノ供給  
ハ履行シ得ズ(佛印側ニテ夫レモ亦己ヲ得ズトスレバ兔  
モ角)左リトテ商社ヲ強制シテ佛印向輸出ヲ爲サシムル  
コトモ不可能ナル爲政府トシテハ困難ナル立場ニ陷ルベ

シ商工省ニ於テモ此ノ點ヲ苦慮シ居ル模様ナルニ付佛印  
側ニモ前記我方ノ方針及右事情ヲ了解セシメラレ成ルベ  
ク餘祐アル「フォーミュラ」(例ヘバ前記我方ノ方針ヲ  
一方的聲明トル等)ヲ立案セラレ具申セラレタシ  
西貢ニ轉電アリタシ

870 昭和17年4月25日 在仏印芳沢大使より

東郷外務大臣宛(電報)

### 仏印米買付けに関する仏印外交部長との交渉

#### 内容について

ハノイ 4月25日後発  
本省 4月25日夜着

第五七六號(大至急)  
往電第五一二號ニ關シ

(<sup>(1)</sup>其ノ後栗山事務總長ト外交部長トノ話合ノ結果佛印側ハ  
米價ノ問題ト取得物資價格安定問題トヲ關聯セシメサル  
コトヲ應諾セルカ我方トシテハ米價一割値上ヲ正式ニ應  
諾スル前ニ佛印側ニ米ノ協定數量ノ履行ニ付更ニ念ヲ押  
シ置クノ得策ナルヲ認メ外交部長ヲ招致シ事務總長ヨリ

(1) 五月末迄ノ協定數量ヲ完全ニ履行スル爲四月十六日以降ト雖我方ノ要求ニ依リ必要アル場合ハ毎日六千噸程度ノ引渡ヲ爲シ得ル様措置スルコト

(2) 本年間ノ對日供給數量ハ未タ決定セサルモ六月以降八月末迄ハ毎月米及副產物十二萬噸程度ノ引渡ヲ爲シ十月末迄ニ米及碎米百萬噸以上ニ達セシムル様努力スルコト

(3) 舷ノ能率増進ノ爲混合委員會ヲシテ具體案ヲ作成セシメ之ニ基キ實行ヲ圖ルコト

以上三點ニ關シ此ノ際佛側ノ回答ヲ要求スル旨ヲ告ケ置キタル處二十二日同部長事務總長ヲ來訪シ(1)五月末迄ニ五十萬六千噸ノ引渡ヲ協定シアル處毎月ノ引渡數量ヲ決定スル迄モナク所要ノ期間内ニ前記數量ヲ確カニ引渡スヘキ旨ノ保證ヲ與フルコトニ付總督府ハ異議ナシ(2)五月十五日頃ニ至リ實際收穫ヨリ生スル「ストック」ヲ検査シタル後ニアラサレハ日本側ニ約束セル輸出餘力ノ實際ノ數量ニ付今直ニ約束ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ此ノ點ニ關シテハ本年二月二十八日成立シタル合意ヲ「コンファーム」スルヨリ致方ナシ但シ六月ノ供給量ニ付テハ茲

(2) 數日中ニ確定シ得ヘンハ船ノ能率増進ニ關シテハ混合委員會ヲシテ具體案ヲ研究セシムルコトニ付同感ナリトノ趣旨ヲ記載セル覺書ヲ手交セリ

(2) 價格安定問題ニ關シテハ四月十八日外交部長事務總長ヲ來訪ノ際貴電第三五〇號ノ三ノ「フホーミュラ」ノ對案トシテ「兩國政府ハ相互ニ其ノ輸出物資價格ノ不合理ナル騰貴ヲ避ケル爲總ユル手段ヲ講スヘキコトヲ約ス四月三十日ニ於テ定メラレタル價格ハ更ニ八月三十一日及十二月一日ノ協議ノ目的タルヘン」トノ趣旨ノ案文ヲ提示シタリ右ニ對シ栗山ヨリ價格ヲ四月三十日現在ニ釘付スルト言フハ最高價格ヲ決定スルコトナルヘキ處事實上斯クノ如キハ實行シ難キノミナラス三箇月毎ニ價格ヲ協議スルト言フカ如キハ華僑當業者ノ「スペキュレーション」ヲ誘致スヘシト思ハル尙先方對案前段モ左ノ文句面白カラサルヲ以テ先方對案ハ日本政府ニ取次キ得サルモノト認ム

價格安定ニ關シ四月十五日我方ヨリ提示シタル案ニ附加スルニ三箇月毎ト言フカ如キ期限ヲ附セス且取得物資ノ品目ヲ限定シタル上右ニ關シ價格ノ變動アリタル際一般

的ニ協議スルト言フカ如キ形式ノモノナラハ研究ノ餘地  
アルヘシト再考ヲ促シ置キタリ

ハノイ 5月2日後発  
本省 5月2日夜着

以上ニテ御了承相成ル如ク佛印側ハ米價問題ト取得物資

ノ價格安定問題トヲ引離シ且一割値下ケニ應諾シタル上

價格安定問題ニ付テハ品目ヲ限定シ且貴電第三五〇號ノ  
三ノ「ホーミュラ」ニ加フルニ専門家間ノ意見交換(右  
意見交換ノ結果兩國政府ハ何等拘束セラルモノニアラ  
サルコト別電文面ニテ御承知アリ度シ)ニテ思ヒ止マリ  
タル次第ナリ右ハ貴電第三五〇號ノ御趣旨ニ全面的ニ合  
致スルモノト認メラルニ付價格安定ニ關スル佛印品目  
御決定ノ上右案文ニテ解決スルコト致度シ至急何分ノ  
儀訓令相成度シ

西貢へ轉電セリ

貴電第四〇四號ニ關シ  
第六一四號

一、米價ニ關シテハ曩ニ貴電第三五〇號ニ依リ政府ニ於テハ  
各方面トモ打合セ御研究ノ結果日「タイ」新爲替比率ノ  
下ニ於テモ精精「タイ」米一「ピクル」八「バーツ」三

〇見當ヲ至當トスルヲ以テ右程度ニテ妥結ヲ期シ得ルコ  
トトナリ而シテ「タイ」米價格ノ右ノ通り決定ヲ見ル場

合ハ佛印米價格モ均衡上昨年度價格ノ一割(増シ)見當ト  
思考セラル趣ヲ以テ「タイ」米價格ノ決定ヲ待チ我方

ノ最終的意嚮ヲ示シ政治的ニ受諾セシムルコトヲ得策ト  
思考スル旨御垂示ノ次第アリ右御内意ニ基キ累次電報ノ  
通リ佛印側ニ對シテハ我方ハ一割増以上ヲ應諾スルコト  
困難ナリトシテ說得ニ努メ先方又之ヲ應諾スルノ已ムナ

キ意嚮ヲ示シ居ル處貴電第四〇四號ニ依レハ曩ニ累次御  
垂示ノ次第トハ異ナリ「タイ」米價格ニ付キテハ一「ピ  
クル」九「バーツ」六〇ト決定ヲ見タル由ナル處察スル  
ニ右ハ對「タイ」爲替切下率丈ケ「タイ」米價格ヲ引上  
す影響につき意見具申

871 昭和17年5月2日

在仏印芳沢大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

ケタルコトナリ米ニ關シテハ我方支拂額ヲ減少セシメントスル目的ハ達成シ得サリシコトト了解スルノ外ナク他方<sup>(2)</sup>二十二日在「タイ」國帝國大使館ハ日「タイ」共同「コンミニケ」ヲ以テ兩國政府ハ「タイ」國ノ對日輸出品ノ價格ハ合理的比率ヲ以テ引上ヶ同時ニ日本ヨリ「タイ」國ヘノ輸出品價格ハ爲替比率改訂前ニ於ケル取引價格ヨリ以上ニ引上ヶサルコトニ意見ノ一致ヲ見タル旨發表セリ(二十二日盤谷發同盟)貴電ニ依レハ「タイ」米買付價格ハ公表セラレストレスノコトナルモ右日「タイ」共同「コンミニケ」ニテモ明カナル如ク佛印當業者乃至當局カ之ヲ推知シ得サル筈無カルヘシ素ヨリ我方トシテハ從來佛印側トノ交渉ニ於テ「バーツ」ノ切下ヲ理由トシテ佛印米價格一割増以上ヲ認メ難シトハ洩シタルコト無キヲ以テ佛印米買付價格ノ差別的待遇ニ付先方ヨリ何等申出アルカ如キ場合ニハ貴電御來示ノ如キ政治的理由ヲ説明セス共經濟上ノ理由其ノ他ニテ應酬シ得ヘシトハ思考スルモ米價ニ關スル政府ノ御方針カ當初ハ一割増モ已ムヲ得サルヘシトセラレ次テ「タイ」米價格トノ均衡上一割見當ヲ受諾セシムルコトトセラレ而シテ今回更

ニ「タイ」米ノ買付價格ヲハ「バーツ」三十ヨリ九「バツ」六〇(輸出稅ヲ含マス)ニ決定セラレタルカ如キ右ハ素ヨリ種々理由ノ存スルコトハ拜察スルモ斯ノ如キ御方針ノ變轉ハ出先ヲシテ困難ナル立場ニ陥ラシムル次第ナリ

尤モ佛印側カ一割増シヲ應諾スル以上「タイ」米價格引上ケノ故ヲ以テ右一割ヲ更ニ増額スルノ要ナキコトト思考スルモ戰爭カ繼續スルニ連レ諸般ノ經濟狀態漸次窮屈ノ度ヲ加ヘ米ノ生産モ亦減少スルコトアル共増產ハ期待シ得サルノミナラス五月中旬ニ至リ今年度對外輸出餘力ノ全量ニ付九十五萬噸乃至百萬噸ヲ約束セシメ得ルトシテモ集荷思ハシカラスシテ昨年ノ如ク協定量以下ノ供給ヲ見ルカ如キコト無キヲ保シ難シ斯ル場合米價差別的待遇ノ爲ニ佛印米カ「タイ」側ニ流出シタリトノロ實ニ利用セラルルヤモ知レサルヘシ何レニスルモ五月中旬佛印米ノ對日輸出量決定後米ノ出廻リニ懸念ヲ生シ佛印側カ米價差別待遇ヲ持出スカ如キ場合ニハ我方トシテハ所要數量ノ獲得ヲ必要トスルヲ以テ或ハ集荷獎勵ノ意味合ニテ增額ヲ考慮スルヤモ知レサルニ付右御含ミアリ度シ、

以上關係省事務當局ノ深甚ナル注意ヲ喚起セシメラル  
様希望ス

二、<sup>(4)</sup> 貴電第三五〇號ノ三ニ依レハ本邦品價格安定ニ付將來ノ  
自然的值上リモ許ササル事トセハ結局商品ハ佛印ヨリモ  
有利ナル他地方ニ惹付ケラルヘシトノ事ナル處當方ノ了  
解スル所ニ依レハ本邦ト占領地トノ貿易關係ハ軍側ノ獨

占スル所ナルヲ以テ大東亞共榮圈内ニ於テ日本貿易會力

關係シ得ル市場ハ満支ヲ除ク(以下十語脱、照會中)價格  
ニテ或程度ノ自然的值上リヲ織込ミタル上綿及人絹類ノ

價格安定ヲ期セラルル方取引ノ圓滑ヲ期シ得ルノミナラ  
ス爾來我方輸出業者カ非難セラレタ如キ契約ノ廢棄等ノ

コトモ無クナルコトト思考セラル

右ハ啻ニ對佛印貿易ノミナラス大東亞共榮圈ノ盟主トシ  
テ大東亞ノ物資交流ヲ促進セシムヘキ地位ニアル我方ニ

取リテハ大東亞建設事業トシテモ必要ナルコトト思考セ  
ラル商工省及日本貿易會カ製造業者竝ニ調停機關ニ壓迫  
セラル實情ニ於テハ本件ノ實現モ相當困難ナルヤニモ

思考セラルルモ綿及人絹類ニ品目ヲ限定スレハ本件モ敢  
テ不可能ニアラサルヤニ思考セラル就テハ佛側ハ差當リ

往電第五七六號ノ「フヲミユラ」ニテ満足シ得ヘキモ本  
件最高價格ノ決定ヲ見ルコトヲ得レハ唯ニ佛印側ニ對シ  
テノミナラス「タイ」ハ元ヨリ我カ占領地以外ヘノ輸出  
ノ圓滑ヲ爲シ得ルモノト思考セラル依テ本件實現方此ノ  
上共御盡力相成様致度シ  
西貢ヘ轉電セリ

872 昭和17年5月29日 東郷外務大臣より

在仏印芳沢大使宛(電報)

日本側所要の米及び副產物買付け量に基づき  
仏印側との交渉方訓令

別 電 昭和十七年五月二十九日発東郷外務大臣より

在仏印芳沢大使宛第五一九号

右交渉における月別米確保目標量

本 省 5月29日後3時10分発

第五一八號(大至急)

往電第五〇五號ニ關シ

一、關係省ト打合ノ結果我方所要ノ米及副產物ノ月別數量別  
電第五一九號ノ通ナルニ付少クトモ右數量ノ供給ヲ確保

スル様御交渉相成度シ

(別電)

本省 5月29日後5時00分発

第五一九號(大至急)

一、六月以降ノ月別取得量(單位噸)

(イ)白米及碎米

三、六月以降ノ白米及碎米ノ所要量ハ五十八萬六千噸(外ニ軍用米多少アリ)ニシテ五月迄ノ供給量五十萬六千噸ト合算スルトキハ百九萬二千噸トナリ去ル一月先方提出ノ予想量白米及碎米合計百二萬四千噸ヨリ多少増加スルコトトナル處當初支那各地ノ食糧ノ一部トシテ米粉(實際ハ米糠)ヲ配給スル計畫ナリシガ其後米粉ハ食用トシテ不適當ナル爲之ニ代ヘ白米又ハ碎米ノ供給ヲ要スルコトトナリタル爲ニシテ右程度ノ増加ハ本年初頭ノ前記出廻量予想提出ノ際ノ先方ノ話シ振リニモ鑑ミ何トカ捻出シ得ベシト判斷ス

三、六月乃至九月ノ要求量相當多量ニ上ルハ本邦及支那ハ端境期ニ入り主トシテ外米ニ依存スルノ外ナク他方佛印ニ於テモ出廻ノ關係上遲クトモ九月末迄ニ協定量ノ引取ヲ了スルコト必要ナルヲ以テナリ

尙本計畫數量ハ本邦及支那トシテ最少限度ノ計畫ナルニ付出來得レバ右以上ヲ確保シ得ル様御盡力相成度  
別電ト共ニ西貢ニ轉電アリタシ

三、六月乃至十二月 每月五千  
計 三萬五千  
(ロ)米糠  
(ハ)右ノ外軍用米トシテ年間五萬七千(内引渡濟ノモノ一萬三千)アリ(イ)ノ月別數量以外ニ取得必要ナリ  
三、本年一月乃至五月ノ引渡量五十萬六千ノ内五月二十四日迄ノ積出實績ハ四十三萬一千(内地向四十萬、支那向三

萬一千)ニシテ殘量七萬五千アル處右ハ、ノ數量トハ別ニ引渡ヲ完了セシムルモノトス

~~~~~

873 昭和17年5月30日

在仏印芳沢大使より
東郷外務大臣宛(電報)

仏印米賣付け交渉に際し供給量及び月別数量

早急回示方要請

ハノイ 5月30日後発
本省 5月31日前着

第七六〇號(至急)
貴電第五〇五號ニ關シ

佛印米ノ取得ニ當リテハ日本側ノ需要ニ最大ノ考慮ヲ拂フ
ヘキコト勿論ノ儀ナレトモ他方佛印米穀事情ノ實際ヲ認識
シテ實行可能ナル計畫ヲ立ツルニアラサレハ却ツテ日本及
東亞ノ食糧補給ニ重大ナル支障ヲ來ス惧アルハ申ス迄モナ
ク右ハ素ヨリ農林省當局ニ於テ充分實情調査ノ上審議セラ
レ居ルコトト存スルモ當方ノ調査ニ依レハ佛印米ノ輸出ハ
上半期七割下二期三割程度ニ配分セラレ而モ昨年度ヨリ價
格トノ關係モアリ更ニ上半期ニ偏スルニ至リタルモノト認

メラル次ニ本年糲出廻リト過去數年間ノ佛印米輸出實績ヨ
リ見ルニ本年度ノ輸出力ハ約百十萬噸内外ニ過キサルモノ
ノ如シ(詳細ハ別電ニ依リ御承知アリ度)仍テ卑見ニ依レハ
佛印側ヨリ六月以後ノ對日供給可能數量ヲ提示シ來ル前ニ
我方ノ要求スヘキ年間數量ト月別計畫トヲ彼ニ提示シ佛印
側ヲシテ出來得ル丈ケ之ヲ應諾セシムル以外對日供給ノ圓
滑ヲ期シ得サルモノト思考セラル右ノ趣旨ニテ數回右數量
御回示方電請シタルニモ不拘目下農林當局ト御協議中ナル
趣ナルノミナラス本年度供給量及月別數量ノ確定ニハ尙相
當ノ時日ヲ要スヘキニ付右ハ後廻シトシテ協定ヲ成立セシ
ムヘシトノ御意図ナル處協定成立前ニ供給量及月別數量ヲ
確定セシムルニ非サレハ如何ニ我方ニ都合良キ計畫ヲ決定
セラルルモ實行不可能ノ案ニ終ル惧ナシトセス仍テ一日モ
速ニ右ヲ御回示アランコトヲ切望ス次ニ貴電ニ依レハ六月
以降十月迄毎月約十三萬乃至十三萬五千噸ヲ必要トスルモノ
ノノ如クナル處別電ニテモ御承知ノ如クスル莫大ナル數量
ハ如何ナル方法ニ依リ獲得セラレントスルモノナリヤ此ノ
邊實際ノ事情ヲモ御斟酌ノ上御檢討アル様致度シ尙曩ニ佛
印側ノ呈示セル出廻リ豫想量ハ總ヘテ日本側ニ供給シ得ヘ

シトハ申シ居ラサルモノナリ爲念

西貢ニ轉電セリ

昭和17年6月9日

東郷外務大臣より
在仏印芳沢大使宛(電報)

仏印米買付け交渉において日本側の必要を充

足するよう仏印側へ注意喚起方訓令

別 電 昭和十七年六月九日発東郷外務大臣より在仏

印芳沢大使宛第五五九号

仏印米供給に関する対仏印要求量

本 省 6月9日後9時00分發

第五五八號(大至急)

貴電第八〇九號ニ關シ

一、米及副産物ノ本年度供給量ニ關スル佛印側提案(八十萬
石)ハ今次經濟交渉ノ基礎ヲ失ハシムモノニシテ先方
ノ誠意ニ疑無キヲ得ズ先般來玉蜀黍ノ對日供給ニ付テ佛
印當局ノ消極的態度傳ヘラレ諸方面ノ關心ヲ惹キ居ル折
柄米ニ付テ斯ル態度ヲ示スハ宛モ佛印當局ガ我方ノ最モ
重要視スル食糧問題ニ對シ協力ノ意思無キヤノ印象ヲ一

般ニ與ヘ我國內ノ强硬論ヲ激成スルノ結果トナルベク延
テハ佛印自体ニモ面白カラザル事態ヲ惹起スル虞アリ就
テハ先方ニ對シ問題ノ重大性ヲ篤ト了解シ誠意ヲ以テ交
渉ニ當リ極力我方ノ必要ヲ充足スル様注意ヲ喚起セラレ
タシ

三、往電第五一九號ノ數量ハ我方トシテ是非共確保ヲ要スル
次第ナルガ冒頭貴電ノ次第モアリ再検討ヲ加ヘタル結果
貴電第七六一號ニノ西貢調査ノ佛印輸出餘力ハ妥當ト認
メラルルヲ以テ之ヲ基礎トシテ別電第五五九號ノ通要求
スルコトシタルニ付右數量丈ハ是非受諾セシムル様御
盡力相成度シ

三、右西貢調査ノ白米及碎米合計百二十萬三千石ノ内佛印國
内消費二十萬石ヲ差引キタル百萬三千石ハ本年度中ニ我
方ニ供給シ得ルモノト思考セラレ之ヨリ五月末迄ノ協定
量五十萬六千石ヲ差引キタル殘リ四十九萬七千石ヲ六月
乃至十月ノ引渡量トセリ尙五月末迄ノ實際引渡量ハ約四
十六萬五千石ニシテ四萬一千石引渡木了トナリ居ル處右
ハ前記六月以降ノ引渡量ニ追加シテ供給セラルベキモノ
ナリ

四、佛印協定量ヲ右ノ如ク削減スル結果生ズル東亞食糧需給
計畫トノ間ニ生ズベキ「ギャップ」ハ「バツタンバン」
米ノ取得(西貢發本大臣宛電報第五一四號)ニ依リ補フノ
外ナキニ付軍側ニモ右事情御説明ノ上極力之ガ取得ニ協
力セシメラレ予定數量ヲ獲得シ得ル様御配慮アリタシ

別電ト共ニ西貢ニ轉電アリタシ

(別 電)

本 省 6月9日後9時10分発

875 昭和17年6月10日 在仏印芳沢大使より
東鄉外務大臣宛(電報)
仏印米供給量に関する仏印側との交渉内容につき報告

ハノイ 6月10日後発

本 省 6月11日前着

第六五九號(大至急)
六月、七月、八月 每月 十二萬廻(日本向十萬、其他
向二萬)

九月 十萬廻(日本向六萬七千、其他向三萬三千)
十月 三萬七千廻(其他向ノミ)

合計 四十九萬七千廻(日本向三十六萬七千、其他向十
三萬)

一月—五月協定 五十萬六千廻

總計年間供給量 百萬三千廻

三、白糠ハ六月ヨリ十二月迄毎月五千廻 合計 三萬五千廻
尙右ハ本邦内ノ飼料用トシテノ取得計畫ニ基クモノナル
モ西貢ニ於ケル搾油工場用又ハ日本側追加取得用トシテ
右以上輸出餘力全部ヲ買取ル予定ナリ

六月六日府員ヲ「マルタン」ノ許ニ遣ハシ米ノ引渡量ニ關
スル四日附先方覺書ニ付大使府ニテ研究セシメタルモ先方
申出ノ數量ハ到底我方ノ受諾シ得サルモノナルコトヲ正式
ニ通告セシメ(右ニ對シテハ「マ」ヨリ種々辯明アリタル
由)タル上八日同部長ノ來訪ヲ求メ事務總長ヨリ總督府覺
書ハ當方ニ多大ノ失望ヲ與ヘタル次第ヲ告ケ(一)日佛兩委員

ニ於テ佛印ノ米ノ輸出餘力ヲ日本側ニ供給スルコトニ付合意成立シタルハ承知シ居ルモ當初相馬部長ヨリ最少限度九十萬噸ノ要求ヲ爲シ之ニ加フルニ支那向乃至ハ佛本國向ニ留保セラルヘキ數量即チ九十萬噸「プラス」「アルファー」ト云フモノカ輸出餘力(Surplus exportable)ト解スヘク日本側カ輸出餘力ト云フ「エキスプレッショニ」ニ同意シタルモ其ノ數量如何ハ佛印側ノ決定ニ委ス即チ佛印側ニ白紙ノ委任狀ヲ與ヘタルモノニアラス今回政府ノ訓令ニ依リ明示シタル百十七萬噸ハ即チ前記九十萬噸「プラス」「アルファーハ」ニ外ナラサルコト(右ニ對シ「マルタン」ハ成程相馬部長ハ當初九十萬噸請求セラレタルモ佛印側ハ昨年ノ如キ違約ノ結果ヲ惧レ未タ嘗テ數字ノ全體ニ付承認シタルコトナシト辯明セリ)(二)我方調査ニ依レハ糲ノ出廻リ豫想ハ百八十萬噸程度ナル由ニテ又先方覺書附錄トシテ再錄シアル糲ノ申告以外ニモ糲ノ「ストック」アル筈ナルヲ以テ速ニ先方調査ノ交趾支那及「カンボジヤ」ノ「ストック」量八十七萬餘噸ハ總テ輸出ニ向ケ得ヘシトノ意見ナルコト(右ニ對シ「マ」ハ日本側調査ノ基礎ヲ承知シタク本年ノ稻作ハ平年作ニアラスシテ不作ナリシコト、成程五噸以下

ノ「ストック」保有者ニハ申告ノ義務ナキモ輸出向米ノ大宗ハ交趾支那ニシテ同地方ハ大地主カ大部分ヲ占メ居ルコト竝ニ總督府トシテハ覺書附錄ニ掲ケタル「ストック」申告ハ其ノ儘輸出餘力トシテ認メ得ス其ノ内ニハ申告量以上ニ輸出餘力ヲ認定セルモノアルコトノ事例ヲ舉ク)(三)六月ノ引渡量ニ付テモ佛印側ハ七萬噸以上ハ可能ナラスト言ハルルモ我方西貢調査ニ依レハ少クトモ十二萬噸ノ可能性アルコト即チ斯ノ如ク双方ノ見方ノ相違シ居ルヲ以テ今次佛印側提示ノ數量ハ其ノ儘受取り難キコト(右ニ對シ「マ」ハ五月未迄ニ五十萬六千噸ヲ引渡ス筈ナリシモ日本側船腹ノ都合ニテ四十七萬噸位シカ引渡シテナク現ニ目下日本側船腹ノ都合ニテ「シヨロン」ニテ二萬噸ノ艀ノ内一萬五千噸ハ米ヲ積載シタル儘ニナリ居レリ即チ五月ニ積込マルヘクシテ今猶残リ居ル量ニ佛印側カ可能ナリトスル七萬噸ヲ加スレハ五月引渡量ハ十二萬噸トモ稱シ得ヘキモ實際ニハ七萬噸以上ハ困難ナリト述フ)(以下十語脱)四我方カ米價一割ノ値上ヲ認メタルハ「コントワール」ノ取引即チ米ノ集荷ヲ容易ナラシメンカ爲ナリ我方ノ承知スル所ニテハ佛印側ハ未タ米ノ買上値段ノ値上ヲ爲シ居ラ

サル處(「マ」ハ之ヲ承認ス)佛印側トシテハ「コントワー
ル」ヲシテ一割値上(事務總長ハ一割値上ト言フモ五月迄

ノ分ハ佛印政府トシテハ既ニ買上ケ濟ナルヲ以テ六月以降
ノ集荷ニ付値上ヲ爲スモノトセハ事實上ハ二割近キ値上ト
謂フヘシト述フ)ニ相當スル集荷ノ努力ヲ爲サンムヘキモ

ノナルコト大使府トシテハ米價一割値上ニ付日本政府ヲシ
テ承諾セシメタル後先方今回申出ノ如キ過少ナル數量ハ政

府ニ取次キ難キコトヲ述ヘ兎ニ角我方覺書ノ數量ヲ鵜呑ニ
ナシ月々ノ引渡量ニ付テハ西貢支部ト討議スルコトトセラ
レタシト告ケタルニ「マルタン」ハ佛印政府トシテモ成ル

丈ヶ多ク日本側ニ引渡シ度キハ素ヨリ望ム所ナルモ日本側
ノ數字ハ統計ニ基ク數字ナルヘク佛印側ノ調査ハ事實ニ基
クモノニシテ如何ニセン約束シ得ル數字以上ニ鵜呑ニスル

譯ニ行カス但シ調査ノ基礎ニ付西貢支部ト意見ヲ交換スル
ハ結構ナリト答フ最後ニ事務總長ヨリ大使府トシテハ日本
政府提出ノ數量ヲ堅持スルコト而シテ其ノ旨「ドクー」總

督ニモ報告アリタク尤モ實際ノ事情ハ我方西貢支部ニ於テ
精通シ居ルニ付「マルタン」氏ト内山支部長乃至佛印經濟

部ト我方西貢支部トノ間ニ速ニ双方ノ調査ニ付意見ヲ交換
シ我方要求ニ近キ數字ヲ見出サレンコトヲ望ムト述ヘ「マ
ルタン」之ヲ承諾シ引取リタリ

就テハ之以上議論ヲ續クルモ實效ナキニ付本件ハ前記ノ
「ライン」ニテ至急西貢ニテ交渉セシムルコトト致度シ

876

昭和17年6月27日

在サイゴン内山公使より
東郷外務大臣宛(電報)

仏印米の対日輸出に関する交渉内容につき報告

別 電

昭和十七年六月二十七日発在サイゴン内山公

使より東郷外務大臣宛第六二八号

仏印米対日輸出に関する仏印側提出覚書

サイゴン 6月27日後発

本 省 6月28日前着

第六二七號

往電第六〇三號ニ關シ

芳澤大使ヨリ

内山公使及蓑田總領事ハ外交部長及經濟部長ト十八日ヨリ
二十日迄ノ間四回ニ亘リ會見討議シタル結果佛印側ハ二十
日ニ至リ漸ク(イ)確約量八十五萬噸(口)殆ト供給可能ト信スル

數量十萬噸(合計九十五萬噸)ハ右ノ外佛印政府ハ對日供給量カ日本政府ノ要求量ニ接近スル爲凡ユル努力ヲ爲スヘシトノ三點ヲ基礎トスル妥協案ヲ提示シ來レル處内山、蓑田ハ右數字ハ受諾シ得サルモノトシテ結局妥協ニ至ラス尙右交渉中先方ハ日本側ニ於テ赤米(「パディアリメンテエル」)供給可能量約三萬噸ノ引取り承諾セハ確約量八十五萬噸ヲ更ニ夫レ丈增加シ得ヘキコトヲ強調シタリ越エテ六月二十一日「ダラット」ニ於テ外交部長栗山ヲ來訪、西貢ニテ佛印側關係者ノ意見ヲ徵シタル上内山蓑田ト意見ヲ交換シタルカ之以上ノ數字ヲ捻出シ難ントテ前記妥協案ノ寫シヲ提示シタルヲ以テ栗山ハ一讀ノ上右數字ハ日本政府ニ満足ヲ與フヘキ筈無キヲ以テ斯ル數字ヲ日本政府ニ取次クコトヲ得スト應酬シ置キタリ

本使ハ二十日西貢ニ於テ内山蓑田ヨリ前記交渉ノ次第ヲ聽取シ二十一日「ダラット」ニ赴キ二十二日總督ニ會見シ西貢ニ於ケル貴我双方ノ討議ノ内容ヲ承ハリタルカ貴方ノ主張セラル數量ハ我方ニ於テ到底受諾シ得サルモノニシテ若シ佛印側ニ於テ我方希望數量ヲ供給セラレサル場合ニハ日本ヨリ佛印ニ供給スヘキ物資ニ付テモ既ニ合意成立シ居

ルニ拘ハラス之ヲ再考スルノ外無シト述ヘタル處總督ハ佛印政府トシテハ當業者トモ協議ノ上八十五萬噸迄奮發シタル次第ニテ御約束スル以上ハ實行可能ナル數字ヲ申上ケタル次第ナリト答ヘタルニ付本使ハ我方調査ニ依レハ佛印ニテハ百二十六萬噸位ハ輸出餘力アリトノコトニテ日本政府ノ期待スル百十五萬噸位迄輸出ハサ迄困難ト想ハレス然ルニ佛印側ニ於テ尙自說ヲ固持セラルニ於テハ事態極メテ困難トナル惧アルニ付貴總督ニ於テ一層ノ努力ヲ拂ハレ度シト述ヘタル處總督ハ百十五萬噸ノ供給ハ全然不可能ナリトテ種々辯明シタル上西貢ニ於テ佛印側ヨリ提出セル妥協案ノ數字ハ此ノ上變更シ得サルモ文章ヲ多少變更スルコトニ依リ何等カ妥協ノ餘地アルヘキヤニモ思ハル旨述ヘタルニ付本使ハ數字ヲ變更セラレサル上ハ日本側トシテ

何等ノ妥協案モ承諾スル能ハス申ス迄モ無ク日本ハ且下大戰爭ヲ遂行中ニテ幸今日迄既ニ大ナル戰果ヲ納メ最早ヤ不敗ノ地位ニ立チタル次第ナルカ佛印トシテハ此ノ大戰爭遂行中ノ日本ノ立場ニ充分ノ同情ヲ表セリ多少ノ不愉快ナルコト等ハ忍耐セラルコトヲ切望セサルヲ得ス米ノ問題ハ日本トシテハ國民ノ生活問題ナルカ故是非トモ解決スル必

要アルニ付篤ト御考慮願度シト述ヘタル處總督ハ茲ニ於テ
初メテ米ノ數量ニ關シ更ニ再考スヘシト申シタルニ付本使
ハ其ノ言明ヲ謝シタル上一應引取りタリ次イテ二十三日栗
山事務總長ハ外交部長ノ來訪ヲ求メ大使以下二十五日西貢
ニ赴ク豫定ナル處之ニ先チ總督トノ間ニ有效ニ話合度旨ヲ
告ケ翌二十四日栗山ハ總督ヲ往訪外交部長列席ニテ會見シ
タルカ總督ヨリ一昨日大使ニ再考ヲ約束シタル處其ノ時ヨ
リ今日迄ノ間ニ満足スヘキ新事實ヲ承知セリ即チ「シヨロ
ン」ニ於ケル米ノ出廻リ狀態カ豫期以上良好トナリ茲ニ總
督府トシテハ日本側ニ對シ新ナル提案ヲ爲シ得ルニ至レリ
トテ別電第六二八號ノ通リノ「ノート」ヲ栗山ニ手交セリ
右ニ依レハ佛印側トシテハ今日ノ處ニテハ九十五萬噸迄確
約シ得ヘク(赤米ヲ含マス)更ニ早速「ストック」ノ數量調
査ヲ行フコトトシ其ノ結果ハ八月始メニ判明スヘキヲ以テ
其ノ際前述九十五萬噸ヲ超加スル供給量ヲ通知スルコトヲ
得ヘク又十一月始メニハ早稻ニ關スル調査ヲ行フヘキニ付
其ノ結果ヲ待ツテ始メテ本年度ニ於ケル全量ヲ確定シ得ル
趣旨ナルカ栗山ハ九十五萬噸ニテハ猶日本側要求トノ間ニ
大ナル開キアリ從テ斯ル數字ニテハ日本政府ノ満足ヲ得ル

コト困難ナリト應酬シタル處總督ハ西貢ニ於ケル出廻リ狀
況ハ極メテ有望ナルノミナラス八月始メニハ追加數量ヲ御
知ラセシ得ヘシト信スルモ今日ノ處確約シ得ル數量ハ九十
五萬噸ノミナリ日本側ニテハ佛印米收獲量ニ關スル日本側
調査ニ重キヲ置カルルカ如キモ毎年度平均收獲量ト現實收
獲量トハ一致セス收獲量ハ毎年増減アリ今年度交趾支那糴
收獲量ハ約二百四十萬噸ニ過キス又佛印カ「バツタン」地
方ヲ失ヘルコトヲ考慮ニ入レサルヘカラスト述ヘタルニ付
栗山ハ日本専門家ノ有スル數字ニ依レハ交趾支那ノ平均收
獲量ハ約三百萬噸アリ「バツタン」地方ノ收獲量ヲ差引キ
テモ今年度「シヨロン」ニ於ケル糴ノ出廻リハ百八十萬噸
ニ上ルトノコトナリ從テ輸出餘力ハ百一、三十萬噸ハ充分
アルヘントノコトナレハ佛側専門家提出ノ數字ハ容易ニ承
認シ難シ且又九十五萬噸ノ各月供給量ノ具體的數字ヲ承知
仕度何トナレハ右九十五萬噸ヲ今後例ヘハ四月月間ニ供給
シ終ルコトスルモ一法ナルヘシト考ヘラルルカ故ナリト
述ヘタル處總督及外交部長ヨリ九十五萬噸ヲ最少限度トシ
テ確約スル佛側提案方式ノ方日本ノ爲利益ト思ハルルモ仰
セノ趣旨ト此ノ方式トヲ併セテ考慮スルコト可能ナルヘキ

モ兎ニ角専門家ノ意見ヲ徵シ度シトテ別室ニ控ヘタル經濟部次長ヲ呼寄セ其ノ所見ヲ述ヘシム同次長ハ九十五萬噸ノ今後ノ分トシテ各月供給可能量ヲ算出スルコトハ可能ナリ但シ八、九兩月ハ玉蜀黍ノ出廻期ナル故米ノ出廻リハ多少阻碍セラルコトアルヘン又早稻ノ今年度供給量ハ恐ラク四五萬噸程度ナルヘシ

尤モ各月供給量ニ付テ特ニ御注意願度キハ只今ノ處米ノ出廻リハ満足スヘキ數量ニ達シ居ルニ拘ハラス船舶不足ニテ積出シ得ス倉庫ニモ限り有リ或ル程度以上ニ至レハ出廻リヲ差止メサルヲ得サルニ至ルヘシト述ヘタルニ付栗山ハ船舶ノ問題ハ日本側ノ責任ナリ當方ノ識リ度キハ例ヘハ九十五萬噸ノ内今日以後供給スヘキ分ヲ十月末迄ニ毎月略十萬噸宛供給スルコトヲ確約スルコト可能ナリヤ否ヤ若シ之カ可能ナラハ十一、十二月兩月ニ於テ早稻其ノ他ノ分ヲ加ヘ合計シテ日本側必要量ヲ供給セラルコト不可能ナラサルヘシト述ヘタル處次長ハ早稻ハ十月迄ニ供給スルコト不可能ナルニ付九十五萬噸ヨリ其ノ分ヲ五萬噸差引キ右十萬噸トシ其ノ内今日以降供給スヘキ分ヲ十月末迄ニ毎月略十萬噸供給スルコトハ船舶サヘアレハ大體可能ト信スト答ヘ

タルニ付栗山ヨリ兎ニ角右十五萬噸ノ如キ數字ニテハ過去半年間ニ亘リ日佛兩代表部カ何ノ爲ニ折衝ヲ續ケタリヤ解ラサルコトトナルヘクスル數字ヲ日本ニ傳達スレハ大ナル失望ヲ與ヘルコトトナルヘシ抑々「ストツク」數量調査ト謂ハルルモ其ノ結果ヲ今少シク確約スルコト不可能ナリヤ（次長ハ短日月ノ調査ハ不可能ナリ七月二十日以降大體ノ印象ヲ御知ラセスル程度ナリト答フ）何レニセヨ自分モ西貢ニ赴キ日本側専門家ニ就キ取調ヘルコトスヘク又同地ニテ經濟部次長トモ面談ノ上記諸點ニ關スル具體的數字ヲ承知スルコト致スヘシト述ヘテ會談ヲ終レリ次テ二十六日栗山西貢ニ於テ經濟部次長ヲ招致シタル處次長ハ「コントワール」議長ヲ同伴來訪栗山ヨリ一昨日總督ヨリ受領セル新提案ニ付西貢ニ來レル後日本側専門家ノ意見ヲ徵シタル處佛印トシテハ更ニ十萬噸即チ合計百五萬噸（早稻ヲ除キ）程度ノ十月末迄ノ輸出ハ充分可能ナル筈ナリトノコトナレハ自分ハ「ダラツト」ニ戻リテ總督ニ右十月末迄ノ數字及十一月以降ノ輸出餘力全部ヲ日本ニ供給スル様要求スル所存ナレハ貴方ニ於テハ右ノ含ミニテ準備アリ度キ旨ヲ申聞ケ置キタリ右ニ基キ「ダラツト」ニ於テ交渉ヲ更ニ

繼續スル筈ナリ

佛印大使へ轉電セリ

(別電)

サイゴン 6月27日後発

本省 6月28日前着

本省 7月1日後8時発

第六二八號

總督府ハ既ニ六月二十日附覺書ヲ以テ通告セル通り現狀ニ
於テハ一九四二年對日米及副產物(Riz et de rizup)供給量
トシテ確約シ得ルモノハ九十五萬噸ナリ又總督府ハ日本側
ニ於テ對日供給量最大限度ヲ知リタキ希望アルヲ諒解スル
處現狀ニ於テハ前記九十五萬噸ヲ超過スル量ヲ確約スルヲ
得ス但シ現存「ストソク」數量ニ關スル調査ヲ至急開始シ
其ノ結果ハ八月初ニ判明スヘキヲ以テ其ノ際出來得レハ前
記九十五萬噸ヲ超過スル供給數量ヲ通告シ得ヘシ尙十一月
初二ハ早稻收穫ニ關スル調査ヲ施行スルヲ以テ其ノ結果ヲ
待ツテ初メテ一九四二年度對日供給全量ヲ確定シ得ルコト
トナルヘシ

河内へ轉電セリ

877 昭和17年7月1日 東郷外務大臣より 在タイ坪上大使宛(電報)

軍用米課税に關しタイ側より申入れについて

付記 作成日、作成局課不明

「タイ」國輸出軍用米ノ課税問題

第九二五號

軍用米ノ課税問題ニ關シ六月上旬「タイ」參事官ヨリ申入
アリタルカ二十九日更ニ「ディレツク」ヨリ西次官ニ對シ
純軍用ノ分ニ付テモ正現ニ輸出稅ノ支拂ヲ要求スル積リニ
シテ帝國大使館モ之ニ同意セラレタリト申述ヘタリ右ハ盤
谷發西貢宛電報第一一號及貴大使發本大臣宛電報第一一
九一號ト符合セサルノミナラス貴地林集團長發陸軍宛電報
ニヨレハ南方民需用ノ分ニ付テハ輸出稅ヲ支拂フモ純軍用
米ハ免稅トスルコト「タイ」側承知セリトノ趣ナリ抑々占
領地向民需米ハ凡テ日本間協定數量ノ中ニ包含セラルヘク
(貴電第一一九一號後段參照)之ニ對シテハ普通ニ輸出稅ヲ
支拂フコト論無キ儀ナルモ純軍用米ニ付テハ共同ノ戰爭遂
行ノ意味ヨリモ免稅スヘキコトハ當然ノコトト思考スル次

第ナルカ前述ノ如ク事情曖昧ナルニ付貴大使館及軍ト「タイ」側トノ話合詳細爲念至急御回電請フ

(付記)

「タイ」國輸出軍用米ノ課稅問題

一、在西貢總軍ハ豫テ馬來其他ノ南洋占領地區ニ於テ兵士ノ食用ニ供セラルベキ米ノ供給ヲ「タイ」國ヨリ受クルニ當リ、其ノ輸出稅ヲ免除セラルルヤウ「タイ」側ニ對シ盤谷守谷武官ヲ通ジテ交渉ヲ試ミ、折衝ノ結果同武官ハ純軍用米トシテ一ヶ年七萬噸ヲ限り免稅ノ了解ヲ取付ケタル趣ナルモ、右ハ文書ヲ以テ取付ケ居ラザル單ナル口頭了解ニ過ギザリシ關係上茲ニ計ラズモ軍用米課稅問題ヲ繞ツテ兩國政府間ニ問題ヲ生ズルニ至レリ

二、抑々本件ニ關スル「タイ」側ノ主張如何ト見ルニ「タイ」側トシテハ純軍用タルト一般民需用タルトヲ問ハズ、同國法律ニ基ク主義上ノ問題トシテ同國ヨリ輸出セラルル如何ナル性質ノ米穀ト雖モ課稅セラルベキモノナルヲ以テ右軍用米ノ輸出稅ニ對シテモ其ノ支拂ハ絕對的ニ要求シ居ルモノニシテ、其ノ支拂ハ既ニ守屋武官ニ於テ承認

シ又在「タイ」帝國大使館ニ於テモ之ニ同意ヲ與ヘタリト主張セリ、右ハ正式ニ「タイ」國外務省ヨリ在「タイ」帝國大使館ニ宛テタル六月一日附公文、六月八日ノ「タイ」參事官ト東光南洋局第二課長トノ會談及ビ六月十九日ノ西次官對在京「タイ」大使ノ會談ニ於テ「タイ」側ガ明白ニ表明セルトコロニシテ、殊ニ最後ノ場合ニ於テ在京「タイ」大使ハ「泰富局ト坪上大使トノ話合ヒニ依リ坪上大使モ稅支拂ニ同意セラレタリ」ト述ヘ居レリ然ルニ右ハ事實ニ非ズ日本側ハ嘗テ大使館ニ於テモ守屋武官ニ於テモ軍用米ノ輸出稅支拂ヲ承諾セルコトナシ三、之ニ對シテ日本側ノ主張スル所ハ要スルニ曰「タイ」攻守同盟締結ノ上、兩國共同作戰ノ下ニ大東亞戰爭ヲ遂行シツツアル今日「タイ」國政府ガ一般民需用ノ分ハ別問題トスルモ純軍用ニ供セラルル米ノ輸出稅ヲ免除スルコトハ「タイ」トシテ當然ナラズヤト云フニアリ、而シテ日本側ハ前述ノ如ク「タイ」側ト折衝ノ結果守谷武官ニ於テ軍用米七萬噸ニ對スル免稅ノ了解ヲ口頭ヲ以テ取付ケタル趣坪上大使發大臣宛來信ニ明記セラレ居リ、又在盤谷林集團長ガ陸軍軍務局長宛發シタル電信ニ於テモ

「純軍用米ニ對スル輸出稅ハ免除スル如ク既ニ小官ト
「タイ」側當局トノ間ニ話合濟ナリ」トアリ

四、以上ニヨツテ明ナル如ク本件ニ付テハ兩國政府間ニ意思
ノ疎通ヲ缺キ居リ遺憾ナルガ、固々我方ハ民需用米ノ輸
出稅支拂ハ勿論ニシテ軍用米ニ付テハ共同戰爭ノ遂行上
泰側ヲシテ輸出稅ヲ免除セシムル様政治的ニ解決スルコ
ト至當ナリト思考ス

附記

「バッタンバン」地方糲問題

軍ハ軍用米トシテ「バッタンバン」地方糲約十五萬噸ノ買
付ニ關スル交渉ヲ開始セルガコノ場合ニ於テモ前述ノ馬來
其他南洋占領地向ノ軍用米七萬噸ノ場合ト同様ニ最初日本
側ハ「タイ」側ニ輸出稅ノ免除ヲ要求シタリ、右買付交渉
ハ長ラク進捗セザリシガ在盤谷原部隊ニ於テ「タイ」側ト
交渉ニ當リ、不敢輸出許可ヲ取付ケタル後稅金問題ヲ折
衝スルコトトナシ居リシガ「タイ」側ニ於テハ稅金問題ハ
第二段トシテ同地方產米ハ盤谷ヘ輸送ノ上日「タイ」貿易
協定ニ依ル數量ノ一部トシテ積出ス計畫ナルヲ以テ日本側

ノ要求ニ應シ難シトテ久シク買付應諾ニ對シテ確答ヲ與ヘ
ザリシガ、原少佐ニ於テ軍事上ノ必要ヲ強調シ嚴談ノ結果
遂ニ七月一日「バッタンバン」地方糲米十五萬噸買付方ニ
關シ「タイ」側ヲシテ承認セシメタルモ結局輸出稅ハ支拂
フコトトセリ

878 昭和17年7月2日 在サイゴン内山公使より

東郷外務大臣宛(電報)

仏印側との米買付け交渉につき報告

サイゴン 7月2日後発

本省 7月3日前着

第六五〇號(大至急)
⁽¹⁾往電第六二七號ニ關シ

在「ダラット」芳澤大使ヨリ

栗山事務總長(十九日總督ヲ往訪(外交部長列席)シ栗山ヨ
リ自分ハ西貢ニ於テ去ル二十四日受領セル貴方提案ニ關シ
日本側専門家ノ意見ヲ徵シ自分トシテモ本問題ヲ篤ト攻究
セル結果佛印側ハ十月末日迄三百五萬噸ノ米及副產物ヲ日
本ニ供給シ得ヘシトノ結論ヲ得タリ即チ日本ノ食糧計畫力

規則正シク實行セラレ得ル爲ニハ尠クトモ七、八、九、十ノ四箇月間毎月十二萬五千噸宛ノ米及副産物ノ供給ヲ受ケサルヘカラス然ルニ此ノ數字ハ佛印關係當局ニ於テ貴總督同様協力ノ熱意アラハ必ス實行可能ナリト信セラルモノナリ依而自分ハ本件解決ヲ促進スル爲西貢ニ於テ既ニ右趣旨ヲ大略經濟部次長ニモ通告シ又西貢ニ於ケル日本側受取機關タル三井ニ對シ毎月十二萬五千噸即チ毎日約四千噸ヲ必ス受取ル様命令シ置キタリト述ヘタル處總督ハ自分トシテハ常ニ關係當局ニ對シ凡ユル努力ヲ拂ヒテ日本側要求ニ應スル様訓令ヲ發シ居ルコトハ御承知ノコトト信ス實ハ在西貢經濟部次長ヨリ御話シノ趣旨ヲ傳達シ來リタルヲ以テ早速其ノ可能性ヲ攻究スル爲「マルタン」ヲ呼寄セルコトニ決シ同人明日西貢着ノ豫定ナレハ同地ニテ曰佛專門家ヲシテ會談セシメテハ如何ト言ヘルニ對シ栗山ハ其ノ必要無カルヘシト拒絕シタルニ依リ總督ハ然ラハ「マルタン」當地到着ノ上當方提案即チ十月末迄ニ早稻ヲ除キ九十萬噸（往電第二）一七號後段ト貴方今回ノ御要求トノ開キ十五萬噸ヲ捻出シ得ルヤ否ヤニ付攻究スルコト致スヘシト述ヘ列席ノ外交部長ヨリ只今ノ御提案ニ依リ十月末迄二百五萬

頓ヲ供給スルニ於テハ早稻ノ供給ハ不用トナル次第ナリヤト訊ネタルニ付栗山ヨリ早稻收獲量ハ佛印側ノ提案即チ最少限度五萬噸ノ供給ヲ期待シ居ルハ勿論ニシテ百五萬噸ハ十月末迄ノ數量ナリト答ヘリ

外交部長ハ現在ノ「ストック」ヲ日本側要求ニ充當シ十一月以後ノ早稻ノ收穫ヲ國內消費ニ融通シ得レハ或ハ解決容易ナルヤモ知レスト述ヘタルニ付栗山ハ日本側ハ貴方ノ説明ニ依レハ早稻ハ十一月後半ニ至ラサレハ其ノ收穫量判明セストノ事ニテ左様ノモノヲ食料計畫實行ノ爲當テニスル譯ニ行カサルニ付兎ニ角十月末迄ニ百五萬噸ノ供給確約ヲ得十月後ト雖モ早稻ト云ハス輸出餘力全部ヲ受取り度シト云フニアリ何レニスルモ總督ヨリ主務官憲ニ對シ日本側ノ要求ニ應スヘキ措置ヲ講スヘシトノ嚴重ナル訓令ヲ發セラルレハ右ハ實現シ得ルモノト信スト應酬シ置キタルカ先方ハ兎モ角「マルタン」西貢ニテ打合セノ上「ダラット」ニ來ルヘキヲ以テ其ノ後何等回答スヘキ旨ヲ述ヘ栗山ヨリ重ネテ總督ニ善處方ヲ要望シテ會談ヲ切りタリ右會談後栗山ヨリ更ニ外交部長ノ來訪ヲ求メ既ニ時日モ切迫シ居ル事ナレハ經濟協定締結ニ至ル迄七月一日ヨリ毎日

四千噸宛ノ引渡ヲ開始スル暫定措置ヲ講スル要アル旨ヲ述
ヘタル處同部長ハ御趣旨ハ御尤ト存スルヲ以テ早速總督ニ

傳フヘキモ確答ハ「マルタン」協議ノ上ノ事トナルヘク若

シ右措置カ可能ナル場合ニハ假ニ四千噸宛ノ引渡カ數日遲

ルルトンシテモ七月一日ニ遡及スル事ヲ得ヘシト答ヘタリ栗

山ヨリ更ニ外交部長ニ對シ總督トノ會談ニテ要求シタル百

五萬噸ハ右會談後日本側専門家ノ意見ヲ徵シタルニ白糠ヲ

含マサル事ニ佛印側ニテ同意スレハ十一月以降ノ早稻ニ對

スル要求ヲ打切ルモ差支ナシ尤モ早稻モ佛印ノ國內消費以

上ニ剩餘アラハ之ヲ受取ル事トスヘシ又赤米(三萬噸)ト先

方ヨリ申出アリタルモノニ對シテハ百五萬噸以外ニ要求

スヘシト念ヲ押シタル處同部長ハ赤米ニ對シテハ異存ナキ

旨述ヘ居リタリ

尙本件經濟交渉ノ經過其ノ他ニ關シテハ當方トシテモ出來
得ル限り速報方心掛け居ルモ當地「ダラット」ニテハ不便
ナル事情アリ總テ西貢ヨリ發電スル關係上多少ノ遲延ハ免
レサル次第御諒承置キヲ請フ

佛印大使府へ轉電セリ

~~~~~

仏印米買付け交渉に關し日本側より妥結案提示

別電

昭和十七年七月四日發在サイゴン内山公使よ

り東郷外務大臣宛第六六二号

右妥結案

サイゴン 7月4日後発

本省 7月4日夜着

第六六一號

往電第六六五〇號及第六五六二號ニ關シ

芳澤大使ヨリ

七月二日栗山事務總長ハ外交部長及經濟部長ノ來訪ヲ求メ  
米ノ數量問題ニ關シ昨日芳澤大使ニ對シ總督ヨリ七月一日  
以降毎日四千噸宛引渡ヲ行コトヲ約束スル由述ヘラレタ  
ルヲ承知シタルカ右ハ單ニ暫定措置ニ過キス自分カ六月二  
十九日總督ニ對シ爲シタル提案ニ關シ總督ハ經濟部長ト相  
談ノ上回答スヘキ旨申サレタルカ其ノ結果ヤ如何ト問ヘル  
ニ對シ外交部長ハ矢張七月二十日迄ノ調査ノ結果ヲ見サレ  
ハ何等確約出來サル旨ヲ答ヘタルニ付栗山ヨリ當方ハ食糧

計畫及輸送計畫等ノ關係モアリ右調査ノ結果若シ當方ノ要

求ヲ満タシ得サルカ如キ場合ニハ無駄ニ待チタルコトニモナリ旁々右調査ヲ待ツコトヲ認ムルヲ得ス但シ貴方トシテハ前記自分ノ提案ニ基キ七月以降十月末迄五十萬噸ヲ約束シ若シ七月二十日ノ調査ノ結果之ニ不足ヲ來ス場合ニハ我方トシテ赤米又ハ十一月以後ノ早稻ニテ之ヲ補フコトスル辨法ヲ認ムルモ差支ナシ

但シ之以上ハ讓歩出來ストテ大要別電第六六二號ノ趣旨ヲ話シ聞カセタル處外交部長ハ直ニ之ヲ書取り經濟部長ト協議シタル後何レ總督ノ意嚮ヲ尋ネタル上何等確答スヘキ旨ヲ述ヘ引取りタルカ後刻右別電ハ本官ニ於テ異存ナキニ付

總督ニ於テモ同様然ルヘキ旨電話シタル處同部長ハ再ヒ栗山ヲ來訪總督ハ右提案ニ同意ナル旨ヲ通告シ來レリ就テハ

河内ヘ轉電セリ

## (別電)

サイゴン 7月4日前發  
本省 7月4日夜着

第六六二號(大至急)

總督府ハ一九四二年十月三十一日迄ニ日本ニ米、碎米百五萬噸(一〇五萬)ヲ供給スルコトヲ約ス總督府カ右ノ供給ヲ爲スコトヲ得サルニ立至リタル場合ハ前記數量ト現實ニ引渡サレタル數量トノ差額ハ十月三十一日以前ニ於テトハ赤米 Paddy alimentaire ヲ以テ又十月三十一日乃至十二月三十一日間ニ於テハ早稻ヲ以テ補填セラルヘシ總督府ハ既ニ約シタル確約ニ從ヒ米、碎米、赤米及白糠ノ輸出餘力ヲ全部日本ニ供給スヘキコト勿論ナリ且又既ニ引渡サレタル數量ノ他總督府ハ十二月三十一日以前ニ白糠三萬五千噸ヲ供給スヘシ

佛印大使府ヘ轉電セリ

編注 日本と仏印間の経済協定は昭和十七年七月十八日に調印。

880 昭和17年7月7日 東郷外務大臣より  
在タイ坪上大使宛(電報)

## 日タイ合弁米穀会社設立の背景について

別電 昭和十七年七月七日発東郷外務大臣より在タイ

イ坪上大使宛第九六七号

右米穀会社設立契約書の内容について

本省 7月7日後6時発

### 第九六六號(大至急)

往電第八二四號及第八二五號ニ關シ

七月二日企劃院第六委員會ニ於テ第八二五號ノ「ライン」ノ曰「タイ」合併米穀會社設立案正式ニ決定セリ仰々本件ハ既電ノ通り「ワニット」來朝中成田「ワニット」間ニ話合進メラレ六月六日「ワニット」立會ノ下ニ別電第九六七

號ノ趣旨ノ契約書カ成田「ライヴァ」間ニ調印セラレタリ

「ワ」ノ成田ニ對スル言辭ヨリ察スルニ「ワ」ハ本件ニ關

シ大體「タイ」側政府筋トノ間ニ連絡アリタルモノノ如キ

モ一方「ワ」ハ淺田ニ對シ本人ノ盤谷歸任迄ハ日本側ニ於

テ正式ニ話ヲ持出スコトハ絶對ニ避ケラレタント懇願セル

經緯アリ「タイ」國政府部内ノ複雜ナル事情ニ鑑ミ貴官ハ

爲念一應「ワ」ト極祕裡ニ打合セラレソノ結果ヲ俟テ本件

會社設立可能ノ見込立タハ左記事項御含ミノ上正式ニ交渉

開始セラレタシ

### 記

一、別電第九六七號契約書ハ日本米穀株式會社副理事長成田

努ノ名儀トナリ居ルモ近日日本米穀株式會社ハ中央食糧

營團ニ吸收合併セラルルヲ以テソノ曉ハ新設會社ノ出資

者ハ同營團トナル見込

二、會社定款、業務要領役員及日本側職員ニ付テハ目下研究

中ニシテ近ク歸任ノ柴野ヲシテ中央ノ方針ヲ携行セシム

三、三菱ハ會社設立後ト雖モ引續キ日本側機關トシテ活動セ

シムル方針ナリ

### (別電)

本省 7月7日後6時発

### 第九六七號(大至急)

「タイ」國側及日本米穀株式會社ハ各其ノ政府ノ承認ヲ受

ケ且日本米穀會社カ日本及東亞共榮圈内ニ對シテ「タイ」

米及其ノ副產物ヲ輸出スヘキ獨占權ヲ日本政府ヨリ確保ス

ルコトヲ必須ノ條件トシテ(右ハ日本政府カ日本米穀會社

ノミヲ新設會社ノ日本側參加者タラシムルノ意ナリ)左記

要領ノ曰「タイ」米穀會社ヲ設立スルコトヲ約ス

一、國籍 「タイ」國法人タル株式會社

三、資本金 公稱一千萬「バーツ」（一千萬圓）トシ設立ト同

時ニ四分ノ一ヲ拂込ムモノトス

三、株式 兩當事者ニテ折半引受ク、株式ノ讓渡ハ本會社

役員會ノ承認ヲ受クルヲ要ス

四、目的 「タイ」米及其副產物ヲ日本及東亞共榮圈内ニ

對シテ獨占的ニ輸出ス

五、役員 役員ハ十一名トシ「タイ」側六名、日本側五名、

社長ハ「タイ」國側役員中ヨリ、副社長ハ日本

側役員中ヨリ選任ス

六、本支店 本店ヲ盤谷ニ置キ支店ヲ適當ノ箇處ニ置ク

七、總會 每年一回開催ス

881 昭和17年7月20日 東鄉外務大臣より  
在タイ坪上大使宛(電報)

タイ米輸出課稅問題等につき在本邦タイ大使  
との会談について

本省 7月20日発

第一〇四八號

六月十六日「デイレック」大使ハ西次官ヲ來訪シ

一、「チーク」材事件ニ付本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ半  
官會社タル「アングロ、タイ」會社ノ「チーク」材ハ  
「タイ」カ宣戰布告後ハ敵產トシテ處分シ得ヘキモノナ  
ルコトハ國際慣行ニ合スルモノニテ今次原部隊ノ措置ハ  
曰「タイ」同盟ノ趣旨ニモ反スルヲ以テ斯カル行動ナキ  
様御配慮致度ト申入レタルヲ以テ次官ハ經過ヲ説明シ本  
件ハ既ニ解決セルモノト認メ居レル處「タイ」ニ於ケル  
敵產處理問題ハ我方ニテモ考究中ナルカ右敵產ハ日本カ  
開戦シ「タイ」カ未タ開戦セサル以前ニ日本軍ニ押收セ  
ラレタルモノニモアリ軍トシテハ戰爭ノ必要モアルヘク  
解決ハ困難ナルモノアルヘシト應酬シ

二、次テ大使ヨリ参考迄トシテ「チヤイ」外務次官補カ在京  
中盤谷ニ於ケル日本軍トノ間ニ種々困難アル點ヲ中央軍  
當局ニ話シ歸途西貢ニ立(二字不明)リ更ニ同様ノ話ヲナシタルニ  
軍側ヨリ直接東京ニ申出タルコトニ關シ不満ノ意ヲ洩サ  
レタリト内話セルヲ以テ次官ハ「チヤイ」ノ爲セルコト  
カ正當ナリヤ否ヤ發言ノ限りニ非サルモ此ノ種事項ノ取  
扱ニ付テハ「タイ」側ニテモ充分分配慮ノ上問題ヲ圓滿ニ  
スル様取扱ハルルカ宣<sup>(宣カ)</sup>ガルヘシト答ヘ置キ

三、更ニ次官ヨリ軍用米ノ課稅問題ニ言及シ軍ノ取扱フ米ノ

中ニハ民需用ノモノモ含マレ居リ右ニ對シテハ軍側ニテ

モ輸出稅支拂ヒニ異議ナキ次第ナリ唯純軍用ノミ免稅ヲ

要求シ居ル處「タイ」側ハ純軍用米ニ付テモ課稅ヲ主張

シ來レルニ付問題トナレル次第ナリ又坪上大使竝守屋武

官モ軍用米課稅ニ同意スルコトナク右ハ同盟ノ儀ニ依リ

「タイ」國カ本件輸出稅ヲ免除スルコト當然ナリトノ見

解ニ出ツルモノニシテ共同戦爭ノ遂行ト云フ見地ヨリ之

ヲ政治的ニ解決スルコト望マンキ次第ナリト述ヘタルニ

對シ大使ハ「タイ」カ參戰以來財政收入激減シ困窮シ居

ル點ニ付同情ヲ拂ハレ度キ旨述ヘタルヲ以テ次官ハ日本

モ失地恢復援助ニ依リ多大ノ土地ヲ回復セシメ又「バツ

タンバン」ノ米約十五萬屯ノ買付ケニモ妥協ノ精神ヨリ

輸出稅ヲ支拂フコトニ同意セル等軍ノ要求ハ控ヘ日ノモ

ノニテ何レ本件ハ現地ニテ交渉ノコト思考スルモ「タイ

イ」側ニテ免稅トセラル様同意アリタシト回答セル趣ナ

リ御参考迄

~~~~~

882

昭和17年8月15日

東郷外務大臣より
在サイゴン蓑田(不二夫)総領事、在タ
イ坪上大使宛(電報)

外米輸入量増加につき訓令

本省 8月15日後8時30分発

合第一五三二號(至急、外機密)

一、朝鮮及臺灣ニ於ル旱魃ニ依リ本米穀年度ノ兩地域ヨリノ
米穀移入額ハ約三〇萬廻ノ減少ヲ來スコトナリタルヲ
以テ之ガ對策トシテ佛印泰緬甸產米及玉蜀黍ノ既定輸入
計畫ニ更ニ約二〇萬廻ヲ追加スルコト竝ニ殘リ一〇萬廻
ノ麥ヲ混入スルコトヲ決定シ(十四日ノ閣議ニテ承認セ
ラレタリ)八月乃至十月ノ毎月ノ輸入數量ヲ左ノ通り改
訂セリ(單位千廻)

計		佛印米	八月		
			九月	十月	
計		佛印玉蜀黍	四〇	五〇	
緬甸米	ナシ	一〇五	一〇五	一〇五	
泰米					
二七五					
三三四					
二九八、二					

(備考) (一) 佛印玉蜀黍八月分ノ四萬屯中一萬屯ハ糠ニ變更ス

ルコトアルベシ

(二) 右計畫ハ全部内地向ニテ共榮圈配分計畫ノ改訂ニ

關シテハ目下企畫院ニテ立案中

三、之ニ對スル配船計畫ハ別電第一五三三號ノ通リナルガ從

來計畫通り實行セラレザリシ憾アルヲ以テ今后ハ

(一) 每月配船ノ半分ハ中旬迄ニ積取ヲ終了ス

(二) 九、十月ノ配船ハ各前月ノ中旬迄ニ決定ス

(三) 「コンボイ」ヲ實施ス

等ノ方針ノ下ニ關係省一致シテ計畫通り實行スルコトト

セリ

三、右「コンボイ」ガ實現シ一時ニ多數ノ船舶ガ入港スルト

セバ尙更前記計畫ノ完遂ハ蒐荷及荷役ニ左右セラルベキ

ヲ以テ此ノ上共蒐荷及荷役ニ努ムル様關係者ヲ此ノ上共

御鞭撻アリタク尙隨時蒐荷及積取ノ實情ヲ電報アリタシ

本電別電宛先 西貢、泰

別電ト共ニ西貢ヨリ河内ニ轉電アリタシ

~~~~~

883 昭和17年8月15日 在タイ坪上大使より 東鄉外務大臣宛(電報)

米穀問題に関するタイ側要人内話について

貴電第八二四號ニ關シ  
第一七三九號(館長符號扱、至急)  
本使數回ニ亘リ「ワニット」ト内談セル處本件ニ關シテハ  
別段異存ナキモ現在日「タイ」間ノ情勢全ク悪化シ從來日  
本側ニ接近シ來リタル自分ノ如キ苦境ニ立タサルヲ得サル  
現在本件交渉ヲ進ムルトスルモ日「タイ」間ノ友好關係ヲ  
増進セントスル本來ノ趣旨ヲ達成スルコト困難ナルノミナ  
ラス自分ノ立場不利トナラサルヲ得サル旨陳述セリ尙「プ  
ライヨン」「ワニット」ヨリ淺田ニ對シ面會シタキ旨非公  
式ニ申出テタルヲ以テ面會セシメタル處彼等ハ本使ニ述ヘ  
タル以上ニ種々ノ實例ヲ擧ケ現在日本人ノ行動ヲ見ルニ  
「タイ」國人トシテ尊敬ニ値スル所ナク各種ノ投書各大臣  
ノ机上ニ山積スル實情ナリ我等ノ如ク從來日本ノ友人トシ  
テ行動シ來リタルモノハ全ク孤立シ現在ノ情勢ハ收拾ノ途

ナク日本ノ爲スカ儘ニ傍観スルノ外ナシトノコトヲ累々陳辯シ其ノ態度半ハ自棄的ニ見受ケラレタル趣ナリ尙「ワ」ハ本件ニ關シ曩ニ本使ニ述ヘタルト全ク同趣旨ヲ述ヘ考慮ヲ求メタリ元來米穀問題ハ日「タイ」經濟交渉中最モ重要ナル事項ナルモ昨今ノ情勢上述ノ如クナリテハ今本件ノミヲ他ノ諸懸案ト切離シ進ムルコトハ妥當ナラスト思考セラルルニ依リ今暫ク情勢ヲ見タル上處理スルコトト致度シ

~~~~~

884

昭和17年9月14日

東條外務大臣より
在サイゴン蓑田總領事宛(電報)

食糧積出を計画どおり進めるため荷役能力増進
及び船腹確保において遺憾なきよう指示について

本省 9月14日後9時00分発

第五四〇號(極祕)

一、最近ニ於ケル内地食糧需給狀況ニ鑑ミ關係省協議ノ上米及玉蜀黍ノ既定輸入計畫ヲ改訂シ又右積取配船ヲ變更シタル次第ハ往電合第一五二三號、合第一五二三號及合第一五八一號ノ通ナルカ貴地米及玉蜀黍ノ積出狀況ハ計畫量ヨリ相當ノ不足ニテ端境期ヲ控ヘ内地米穀事情ハ憂慮

スヘキモノアリ萬難ヲ排シ計畫通り積出方希望ニ堪ヘサル處海務院ニ於テハ折角配船スルモ貴地荷役能力ノ低下及現物手當ノ關係上滯船ノ余儀ナキニ至ルコトナキヤヲ危惧シ船腹極度ニ逼迫ノ折柄極力滯船防止方要望シ居ルヲ以テ荷役能力増進及現物確保ニ遺憾ナキヨ期セラレ度尙今後ノ配船審議ノ參考ノ爲荷役能力其他ノ事情ヨリ觀テ現在ノ配船ヲ圓滑ニ處理シ得ル見込ナリヤ貴見御回示相成度シ

二、目下ノ配船狀能ヨリセハ九月中積込ヲ要スル米ハ一二七、〇〇〇屯ノ見込ナルカ在庫數量及糶廻着數量等ヲ考慮セハ協定規格品積込可能數量ハ一〇八、〇〇〇屯程度ニテ差引一九、〇〇〇屯ハ玄米又ハ赤糶ヲ充當スルモ已ムヲ得サルヘキモ右ニ依ルトキハ左ノ如ク致度
(イ)内地向ハ丸粒(二號白級以上)ヲ積込ムコトトシ之カ爲玄米ハ可及的精米セシメテ引取ルコト
(ロ)赤糶ハ蒸米トシテ買取ルコト
三、尙糶廻着狀態ニ鑑ミルトキハ十月ヘノ繰越米不足スル虞アルヤニ認メラル處今後ノ糶出廻竝ニ船積促進方督勵相成度尙十月分配船計畫ノ都合モアルニ付十月現物供出

見込數量併セテ御回報アリ度シ

河内へ轉電アリタシ

885 昭和17年9月26日

在タイ坪上大使より
谷外務大臣宛(電報)

タイ米輸出税引上げに關しタイ外相へ注意喚

起について

バンコク 9月26日後発
本省 9月27日前着

第一〇八三號

貴電第一〇〇四號ニ關シ

「タイ」米輸出税引上ケニ關シテハ「タイ」政府ニ抗議中
ノ處十月一日ヨリ更ニ引上ヲ爲サントスル氣配アリタルニ
付外務大臣ニ豫メ注意ヲ促シ

一、輸出稅算出ノ基礎タルヘキ價格トシテハ日「タイ」間ニ
決定ヲ見タル九「バーツ」六〇「サタン」ヲ採用セラレ
度

二、麻袋ハ現在ハ總テ日本側ヨリ供給シ通ヒノ袋タル事實ニ
鑑ミ麻袋價格ヲ含マサル裸價格ヲ基礎トセラレ度キ

コトヲ申入レ且現行稅額算出ニ付稅關當局ノ説明ヲ要求セ
リ右ニ對シ外務大臣ハ直ニ太藏大臣ト聯絡シ調査ノ上回答
スル旨申述ヘタリ尙別途「ワニツト」及「ヴィウアト」ニ
對シテモ注意ヲ促シ置ケリ

886 昭和17年10月10日

在タイ坪上大使より
谷外務大臣宛(電報)

タイでの水害救済のため救恤品供与を在本邦

タイ大使へ伝達

本省 10月10日後9時30分発

第一四七八號(緊急)

往電第一四五三號ニ關シ

本十日「タイ」大使ヲ招致シ本大臣ヨリ本日拜謁ノ際「タ
イ」國水害狀況ニ付詳細奏上致シタル處陛下ニハ痛ク御同
情遊サレタリ一方政府ニ於テハ豫テ「タイ」國カ我カ盟邦
トシテ共同戰爭ノ遂行ニ從事シ苦樂ヲ共ニシ居ル關係ニモ
鑑ミ今回ノ災害ニ對シ事情ノ許ス限り有ユル方法ヲ以テ之
力救濟ニ協力センカ爲種々劃策中ナリシ處右 陛下ノ思召
ニ顧ミ此ノ際政府トシテ五百萬圓程度ノ救恤品就中醫療品

等ヲ出來得ル限り速ナル船便（危險分散ノ爲數隻ニ分チ）ニ
テ逐次輸送スルコトニ決定セル旨ヲ告ケ此ノ趣ハ同時ニ在

「タイ」帝國大使ニモ電報スヘキ旨申添ヘ尙本件ハ「タイ」

側ニ於テ國內ニ效果的ニ周知方取計フト共ニ本件ニ關スル

日本向通信ハ之ヲ差止ムル措置ヲ講スル様要望シオキタル

處「デ」大使ハ本國政府ニ於テハ 陛下ノ思召及政府ノ決

定ニ對シテ衷心感謝スルモノト思考スル處不取敢自分ヨリ

深甚ナル謝意ヲ表スル旨ヲ述ヘタリ

就テハ右ノ次第至急先方（御裁量ニ依リ成ルヘク「ビブン」

總理ニモ）ニ通報セラレ度

尙右金額ハ内地水害ニ對スル救濟振ニ比シ著シキ巨額ノ支

出ヲ爲ス次第モアリ日本ニ於テハ本件ノ發表ヲ適宜制限ス

ル筈ニ付其ノ旨「タイ」側ニ極祕内報セラルト共ニ「タ

イ」側發表乃至報道ヲ其ノ儘内地ニ「キヤリー」セサル様

特ニ貴地駐在邦人通信員ヲ指導セラレ度シ尤モ「タイ」國

内ニ於テハ本件ハ宣傳啓發上十分效果的ニ利用シ對「タイ」

施策ニ基ク「タイ」側利導ノ目的達成ヲ期セラル様致度

~~~~~

### タイでの水害をうけてタイ米の対日輸出量に

#### つきタイ側との協議について

バンコク 10月13日後発

本省 10月14日前着

#### 第二二〇六號（緊急）

一、被害民救濟ノ爲用意スル必要アルヲ以テ差當リ日本向ト

シテハ玄米、碎米ヲ主トシ丸米ハ之ヲ最小限ニ止メラレ

度キ旨「タイ」政府ヨリ非公式ニ申出アリタルニ付柴野

「ワニット」間ニ協議セシメ差當リノ積荷トシテハ第二

項ノ通り決定セリ其ノ際一九一七年ノ大洪水ニ際シ「タ

イ」政府カ米穀ノ輸出ヲ禁止シタル事實ニ鑑ミ今回モ右

ノ如キ措置ヲ爲ス意嚮アリヤ否ヤヲ質シタルニ「ワ」ハ

現在ノ所右ノ如キ意嚮ナク自分トシテハ右ノ如キ意見ハ

極力防止スル旨言明セリ更ニ水害狀況ニ關シ説明ヲ求メ

タル處其ノ要旨左ノ通リナリ

(2) 一九一七年ノ被害ハ主タル浸水縣二〇餘縣ニシテ收穫減  
ハ該地域ノ收穫ニ對シ五二%全國平均四七%ニ達セリ本

年ノ洪水ハ一九一七年ノ洪水ヨリモ寧ロ被害大ナリト豫想セラレ北ハ「ランパン」ヨリ南ハ盤谷ニ至ル平野ハ殆ト水底ニ没シ東西ハ山際ニ至ル狀況ナリ而シテ浸水耕地ノ大部分ハ水位稻ノ草丈以上ニシテ再植付ノ外無ク十一月中ニ引水セハ再植付可能(例年九月ヲ最終トスル)ナリト思料シ「タイ」政府ハ早稻種糲又ハ豆其ノ他ノ雜作物ノ種子ヲ準備中ナルモ再植付可能ナルヤ否ヤハ今二週間ヲ経過セサレハ豫想困難ナリトノコトナリ

右説明ヲ基礎トシテ計算スルニ作付面積二千萬「ライ」收穫豫想ヲ平年ノ五分作即チ白米換算一七〇萬噸トスレハ來年度輸出餘力ハ四〇萬噸ヲ上ラサル見込ナリ

三、「タイ」米輸出ニ關シテハ十月一日以降出帆濟内地向一二、五二九噸目下入港中内地向四隻二五、二三二〇噸(白米一四、四一七噸玄米六、一〇三噸碎米四、七〇〇噸)支那向二隻四、一一九噸(全部碎米)昭南向一隻五、一六〇噸(白米六六〇噸碎米四、五〇〇噸)右ノ内十日現在解取未濟一六、一四〇噸一隻ヲ除キ何レモ十三日頃迄ニ出帆セシムル豫定今後入港豫定支那向三隻七、五五〇(全部碎米)ノミニシテ内地向無シ

<sup>(4)</sup>

三、盤谷ニ於ケル精米場ハ現在「タイ、ライス」社系一二中繰業中ノモノ五其ノ他華僑系工場二七中ニハ繰業不能又

ハ中止從テ日產精米能力白米約六〇〇噸ニ過キス糲出廻モ激減シ一日平均一、〇〇〇噸ニ満タス

今月中、下旬更ニ増水ノ見込ニシテモ一部浸水入港中ノ

本船ニ極力積取ヲ急キツツアルモ牽船不足河流速キ爲解ノ移動困難水位高ク荷役困難ニシテ能率半減ノ状態ナリ

~~~~~

888

昭和18年7月16日

在タイ坪上大使より
青木大東亜大臣宛(電報)

タイ米の対日輸出に関するピブンとの会談及

びタイ米輸出計画について

バンコク 7月16日後発

本省 7月17日前着

第二二七八號

貴電第七四三號ニ關シ

一、御來示ノ趣諒承本使再三「ビブン」ト會見日本側要望ヲ篤ト説明協力方申入タル處「ピ」ハ「タイ」トシテモ出來得ル限り多量ノ米ヲ日本ニ輸出致度處存ニシテ此ノ上

トモ政府各方面ヲ督勵シ出來得ル限り多量ノ米ヲ供給ス
ル様致スヘキ處本問題ハ主トシテ國內交通運輸力ニ懸ル
次第ニ付日本側ニ於テモ出來得ル限りノ援助ヲ與ヘラレ
度具體案ニ付テハ日「タイ」双方ノ専門家ヲシテ研究セ
シメ度旨答ヘタリ

三、我方ニ於テハ軍當局ノ協力ヲ得客月二十日ヨリ「プラタ
ボン」「バンコツク」間ノ軍鐵道ニ依リ米輸送ヲ開始シ
往電第一一四三號ノ數字モ右輸送ヲ計算ニ入レタル次第
ナルカ其ノ後(イ)同地方商人及農夫ノ賣惜ミ始マリタルコ
ト(ロ)家蓄ノ流行病ト耕作期ニ入りタルコトニ依リ出廻リ

不良ニシテ鐵道輸送困難トナレルニ付右軍事輸送ヲ取止
メ之ニ利用セル機關車及貨車ヲ「タイ」側ニ委ネ東北部
地區ヨリ蒐荷シ別ニ「プラタボン」地區ノ米ニ付テハ
「ブノンペン」向ヶ替ヘ軍用列車及水路ヲ利用スル計畫
ヲ建テ種々接衝ノ結果「タイ」側ノ同意ヲ取付ケタリ山
鬼山丸積込ミ機關車六輛十一日揚荷ヲ了シ且下其ノ組立
ヲ急カシメ居ル處設備ノ關係モアリ其ノ利用ハ八月初頃
トナル見込ナリ其ノ後東北地區ノ米輸送ニ充當スル筈ニ
ハ軍當局ノ援助ヲ受ケ又「タイ」側ヲシテ凡ユル協力ヲ

爲サンメ居リ八月以降集荷見込トシ左記ノ通り辛シテ御
來示ノ六三五、〇〇〇噸輸出可能ノ計算ヲ建テタルモ右
ハ「ブノンペン」向約二萬噸ノ白米輸入糲ノ輸出ヲ含ミ
居リ尙水運ニ依ル集荷五萬噸ハ希望的目標ニシテ事實上
其ノ實現ニハ鮮カラサル困難アリ精々四萬噸程度ト豫想
セラル(最近水路ニ依ル集荷四、三〇〇噸ナルカ八日ハ
五〇〇噸ニモ足ラス水路沿岸地域ハ洪水ノ被害地ニシテ
其ノ點ヨリ注意ヲ要スル事情アリ又軍路集荷ハ天候ニ左
右セラル所大ニシテ不確實トナルモ已ムヲ得ス)

記

東北地區ノ鐵道ニテ糲二萬噸

「プラタボン」地區ヨリ「ブノンペン」向糲二萬噸

軍路ニ依ル集荷糲五萬噸

右合計一〇萬噸ノ白米換算額七萬噸

内現地軍用及馬來向輸出五千噸

差引内地向輸出可能量六萬五千噸

三、右ハ八月及九月ノ見込數量ナルカ七月分ニ付テハ當初ノ
見込ヨリ水路ニ依ル分ハ多少增加セルモ鐵道ニ依ル分ハ
前記「プラタボン」地區ニ於ケル鐵道輸送ノ不圓滑モア

リ減少シタルヲ以テ結局往電第一一四三號ノ數字ト大差ナキ見透シナリ

四、當地米出廻リ不良ノ最大原因ハ累次申進メノ通り國內輸送機關ノ不足ニアル處「タイ」緬鐵道完成ノ暁ハ當國鐵道ノ負擔ノ増加スヘキ事情ヲモ御勘案ノ上鐵道貨車「トラック」「タイヤー」等ノ供給ニ付此ノ上共御盡力相成

度シ特ニ鐵道修繕材料ハ其ノ量少クシテ最モ速ニ其ノ效果ヲ發揮シ得ヘキニ付其ノ積出促進方御配慮相成度シ（往電第一〇三五號及第一一一四號其他御參照）

（註、右九〇萬噸中ニハ本年度ニ於ケル引渡未了分ヲ含ムモノトス）

（一）取極數量ハ輸出餘力全量引渡ヲ約セシム
（二）最低年間保障量ヲ九〇萬噸トス

（三）價格ニ付テハ多少ノ値上ヲ認ムル豫定ナルモ當方ヨリ進ンテ話ヲ持出ササルコト

前年度引渡未了分ニ付テハ前年度價格ヲ適用ス

（四）毎月ノ引取數量ハ大體ノ目安ヲ定ムル趣旨ニテ決定シ其細目ニ付テハ出廻量等ノ關係モアルニ付貴官ノ裁量ニ一任ス

（五）銘柄ヲ可成簡単ニス

（六）糠ニ付テハ特ニ數量取極ヲ行ハス但シ我方ヨリノ米糠油糟ノ輸出許可申請ニ當リテハ直ニ許可ヲ與フヘキコトヲ約セシム

第八二八號（至急）

本省 11月2日後8時発

昭和十九年十一月二日 青木大東亞大臣より
在仏印芳沢大使宛（電報）

昭和十九年度における仏印米及びとうもろこし輸出交渉につき交渉方針訓令

十九年度ノ對佛印我方要求物資中米及玉蜀黍ハ之ヲ他ノ一般物資ト切離シ直ニ交渉ヲ開始シ極力本月中ニ取極ヲ成立セシムルコトト致度ヲ以テ左記要領ニ依リ佛印側ニ對シ至

急御申入相成度
一、米

（七）代金ノ支拂ハ甲勘定ニ依ル（本年一月特別圓決濟ニ關スル取極成立シタルヲ以テ乙勘定ヲ設定シタル實質的
理由存セサルニ至リタルニ依ル）

三、玉蜀黍ノ交渉ハ米ト併行シテ開始シ大體同一方針ヲ以テ臨マレ度

最低保障量ハ本年度ノ實績及作付減少ノ傾向等ヲ考慮シ

一五萬噸程度トス價格ハ相當程度値上ヲ要スルモノト豫定シ居ルモ先方ノ申出ヲ俟テ決定ス

西貢ニ轉電アリタシ

890 昭和19年11月23日

在仏印芳沢大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

昭和二十年度仏印米協定に關し交渉方針回示

方要請

別 電 昭和十九年十一月二十三日發在仏印芳沢大使

より重光大東亞大臣宛第一二四九号

昭和二十年度における仏印米協定交渉に關す

る関連情報

サイゴン 11月23日後6時30分発
本 省 11月23日後10時00分着

第一二四八號(大至急)

河内ニ於テ鈴木ニ對シ「マルタン」ヨリ十一月上旬西貢ニ

赴クヘキニ付其ノ際米問題ニ付テハ何カト好都合ナル同地ニ於テ來年度米協定ヲ締結致度キ處日本側ノ意嚮如何ト質問セリ

本件ハ現地陸海軍ニ於テモ早急決定ヲ希望シ居ル次第モアリ右兩者トモ協議ノ結果別電第一二四九號事由ヨリ左記方針ヲ以テ交渉致度ニ付右ニ對シ今月中ニ何分ノ貴見御回示相煩度

記

一、引取協定數量ハ輸出餘力ノ全額トシ且最低六〇萬噸ヲ保障セシメルコト

二、引取價格ハ現行價格ノ五割程度引上ヲ認ムルコト

三、爾餘ノ各項ニ關シテハ概ね本年度通リトスルコト

(別 電)

サイゴン 11月23日後7時00分発
本 省 11月23日後10時00分着

第一二四九號(大至急)
第一二四九號(大至急)

一、來年度引取り可能見込量
本期作柄良好ナルモ(イ)雇傭勞力不足(農村勞賃ヨリ有利

七 「大東亜共榮圏」における食糧問題

ナル他労働ニ轉出(可)勞賃及農具ノ暴騰(昨年ノ二倍)必需物資ノ不足(主ニ綿布)等ニ依ル採算割ノ爲中小地主及小作人ノ放棄田一割以上ニ達シ居リ結局交趾支那ハ作付二〇〇萬「ヘクタール」收穫二二〇萬噸(糲)ト推定サレ從テ本年度引取量(五〇萬噸)以上多クヲ期待シ居サル状況ナリ

而モ各種協力ニ好感ヲ見出シ得サル一般情勢ヨリスレハ我方ノ出方如何ニ依リテハ理論的ニモ(地場消費増、安南、東京ノ米不足、米價高)實行ニ於テモ(極度ノ燃料不足對策トシテ發電所モ未使用及電力精米場運轉停止)更ニ引渡量ノ減少ヲ來ス惧多分ニアリ

二、現地陸海軍ノ來年度需要推算ハ南方作戦補給上ノ要請並ニ東亞共榮圏中食糧不足ニ惱ミ居ル所極メテ多ク且其ノ窮狀深刻ナリトノ見地ヨリ

陸軍	四十萬噸
海軍	二十萬噸
計	六十萬噸

ニ達シ居リ更ニ支那其ノ他ノ需要モ織込ム要アルヘク即チ佛印米ハ可及的多量引取ヲ要スヘシ

三、新引取價格ニ付テハ佛側ニハ現行ノ二倍ヲ唱フル向モア
リ大巾値上ハ避け得サルモノト思料ス

四、依テ來年度米協定ハ早急積極的ニ申進ムルコトトシ價格ニ於テハ讓歩シ置ク反面引渡數量ノ確實且增量ヲ期スル様方策ヲ講スヘキモノト思考シ居レリ

河大ヘ轉電セリ